

令和元年度事業実績報告 ~~(案)~~

自：平成 31 年 4 月 1 日
至：令和 2 年 3 月 31 日

目次

事業実施状況並びに期末評価	1 ~ 2
事業別利用実績	23、24
年度別利用率の推移	25
利用者の状況	26、27
事業・職種別職員数一覧	28
職員の動向等	29
施設外研修一覧	30
施設内研修一覧、資格取得状況一覧	31
外部実習受入及び地域交流等の状況	32、33
苦情解決	34
地域包括支援事業（上越市受託事業）	35 ~ 38

社会福祉法人 上越頸城福祉会
しおさいの里等複合施設

特別養護老人ホームしおさいの里
障害者支援施設 さいはま園
デイサービスセンター ゆりかご荘
しおさいの里居宅介護支援事業所
しおさいの里地域包括支援センター

令和元年度 事業実施状況ならびに期末評価（案）

1-1) しおさいの里等複合施設全体

事業目標：福祉制度や分野を越えた新たな枠組みや連携の仕組みを検討するなかで、複雑で多様な生活課題を抱える地域住民や福祉サービス利用者のニーズに応えていきます。

重点目標1. 上越頸城福祉会版「地域包括ケアシステム」の構築を目指します。

重点目標2. 時代に応じたケア体制の構築を目指します。

重点目標3. 人材の確保ならびに生産性の向上と安心して働く職場環境の構築を目指します。

重点目標	実施状況・期末評価
①法人内（しおさいの里事業部・夕映えの郷事業部間）での横断的な組織「我が事・丸ごとプロジェクトチーム」を立ち上げます。	<ul style="list-style-type: none"> 9月に示された「上越市版地域包括ケアシステムの構築に向けた地域における相談体制の見直し」について、法人として対応していくことを最優先課題とし、10月より夕映えの郷と情報共有及び検討を開始した（下記重点目標②参照）。 横断的な組織体制の検討については、次年度の法人本部機能の再編とともに継続して協議を行っていきたい。
②利用者個人や世帯が抱える複合的な生活課題への対応の充実を図るために、相談支援部門（しおさいの里地域包括支援センター、しおさいの里居宅介護支援事業所、夕映えの郷相談支援事業所）間の連携を強化します。	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターでは、6/17 上越基幹相談支援センター職員と夕映えの郷相談支援担当職員と意見交換する機会が持て、地域の相談支援の現状を理解するとともに上越基幹相談支援センターの事業内容の確認や、地域共生社会の実現に向けた連携の在り方について双方の見解を認識することができた。 居宅介護支援事業所では、障害福祉サービスと介護保険サービスを併用する利用者や、2号被保険者のサービス利用にあたっては、障害分野の相談支援機関や行政等と連携に努め、広い視野と他分野の専門的知識を持ち合わせて対応できるよう努めた。 次年度の上越市地域包括支援センターの運営方針として、専門職1名の配置増（障がい分野、生活困窮分野の相談窓口機能の追加）が示された。この対応について、当複合施設（統括施設長、障害支援課長、在宅支援課長、地域包括支援センター管理者）と夕映えの郷（統括施設長、各事業の管理者）間で連携・協働の体制づくりに向けた協議を開始し、共通の検討事項として課題を共有している。今後は管理職レベルでの協議は法人の「我が事・丸ごとプロジェクトチーム」で引継ぎ、法人全体の体制づくりに向けて協議を進めていく。現場担当者レベルでの連携・協働の体制を起動させていく要として「夕映えの郷・しおさいの里相談職連携会議」（以下、夕映えの郷との連携会議）を位置付け、夕映えの郷相談支援事業所（地域活動支援センターを兼ねる）の職員と地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所の職員を参加者に、月1回の定例会議として開始し、その中で合同勉強会も実施している。
③高齢障がい者と障がい高齢者それぞれの特性を踏まえつつ、地域共生社会の視点に立ったケア体制について引き続き検討し、実践していきます（障害福祉サービスから介護保険サービスに移行する利用者の受け入れ、共生型サービスの検討等）。	<ul style="list-style-type: none"> 法人として障害分野の専門職種を増やしていくため、サービス管理責任者研修に職員2名を派遣した。修了者は部署内の職員会議にて復命と伝達を行い、職員間で共通理解を深めると共に、専門分野を超えた地域共生の意識付けを図っている。修了者1名は9月に障害部門（さいはま園）へ配置換えを行った。地域の障害福祉分野のニーズを的確に把握し、障害福祉分野の期待と要請に応えられるよう具体的な検討を進めていきたいと考えている。 高齢部門において、今後は要介護高齢者に限らず様々な障がいがある利用者を受け入れていく場面が増えていくことも想定しながら、運営体制を構築すると共にサービスの質を担保するための人材の育成および確保にも努めていく。 地域の障がい福祉分野のニーズを的確に把握し、障がい福祉分野の期待と要請に

	<p>応えられるよう具体的な検討を進めてきた結果、デイサービスにおいて「基準該当生活介護」サービスの指定申請を行い、4/1付けで指定を受ける方向になる。今年度は体制整備を行い、次年度はさいはま園との連携や夕映えの郷との連携会議の参加者にデイサービス職員も加え、制度理解や知識習得、支援のあり方等について学習し、対象者の受入れに向けて準備を進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1月より、夕映えの郷との連携会議を月1回の定例として開始し、高齢及び障がい分野の専門職が情報共有を図り、事例を通じて共に学び合うことで制度や他分野の支援の進め方等の相互理解を促進し、個々の力量向上を図った。
<p>④各ケアユニットや職種間の「役割」を尊重し合うとともに、地域包括ケアシステムの原点となる「支え合い」や「思いやり」の視点からの連携・協力体制の再構築を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4月より特養部門において6丁目・7丁目の2ユニット（介護単位）を1ユニット体制とする取り組みを開始し、協力体制はほぼ構築できてきているが、更なる強化のため検討を進めている。 ・将来の介護人材不足も想定し、6丁目と7丁目に限らず、他のユニット（2丁目、3丁目、5丁目）においても、10月より体制検討会議をスタートさせた。しかし、人材不足の課題が大きく、新年度に再度見直し検討できるようにする。
<p>⑤新潟県が実施主体となる「認知症介護研修（基礎研修、実践者研修、実践リーダー研修）」等の研修会に計画的に参加し、施設内での認知症ケア向上につなげていきます。</p>	<p><今年度の研修参加状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎研修（4名修了）、実践者研修（3名修了）、実践者リーダー研修（1名修了） ・今年度より認知症ケア向上に向けた研修会「みんなで学ぼう会」を立ち上げ、年7回開催した（内部職員延べ87名、外部延べ55名参加）。外部の事業所職員等と共に学び、交流する機会となり貴重な情報交換の場となっている。また、9月に開催した「レクリエーションの手法」や、1月に開催した「認知症を持つ人の生活環境」では、外部講師を招き、外部・内部共に多数参加があった。 ・令和元年度新潟県認知症ケア・アドバイザー派遣事業に参加し、7丁目の利用者を対象に多職種で取り組んだ。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、派遣事業は中断となる。
<p>⑥高齢事業部門（特別養護老人ホーム、デイサービスセンター）において、ICT（情報通信技術）を活用した記録業務の効率化に向けた取り組みを推進します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「業務記録の電子化導入に向けた検討委員会」を創設し、6月11日に第1回会議を開催以降、定期的にハード、ソフト両面にわたり検討、準備を進めてきた。 ・特養部門では、委員が中心となり会議に参加し、各部署職員に共有化を図った。また職員向け研修にも参加し、できる部分から導入を開始した。積極的にパソコンに向かい慣れるため日々取り組んでいる。次年度5月からの本格運用を予定している。 ・デイサービスでは先行して2月より導入し、担当者が全職員へ操作方法の説明を繰り返し行い、職員の困惑や不安を解消しながら順調に経過してきている。電子記録になり、効率は上がったと現場職員は評価している。
<p>⑦介護ロボット等の活用による介護業務の効率化や負担軽減に引き続き取り組みます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ケア向上委員会が中心となり施設内で「福祉機器・用具展示会（研修会）」を開催した（8/1、2、職員32名参加）。当日は外部業者から最新の移乗支援用具等を借用し、実際に体験するとともに、職員間で機器に関する情報の共有が図れた。今後の導入につなげていきたい。 ・中期も外部業者から移乗支援用具を試行として数名の利用者で実施した。利用者も安全で職員も業務負担軽減の効果も見られるため今後導入を検討する。 ・さいはま園では、移乗支援用具、離床支援ベッドに続き、体位交換マットの導入等で業務軽減が図られるようになった。引き続き、器具の導入を検討していく。また、ナースコールと電子記録システムの連動化では、コール回数の最高月は全体で3400回程度（1日224回程。全体ではおよそ6分に1回のコール）となり、改めて

	<p>業務量の多さも可視化された。浴室やトイレなどのコールも含むと通常の 3 大介護以外の対応も大きいこともわかった。</p>
⑧地域に暮らす高齢者やボランティア、夕映えの郷メンバー等に対し、社会における活躍の場を提供するとともに、地域住民や施設利用者の生活の質の向上に引き続き取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年より施設内の疥癬流行により、地域との交流に支障が生じていたが、状況も落ち着いたため、交流を再開した。 ・従来からのクラブ活動（裁縫、畑、園芸）や音楽レク、介護予防教室等で地域の高齢者等にボランティアとしての活躍の場を提供し、また、交流により利用者のいきいきとした姿、生きがいを持ち生活している姿も見られるようになった。 ・さいはま園では当園の疥癬や風邪症状の流行等の発生等により、夕映えの郷との交流を中止せざるをえない状況が続いた（年間 1 回の交流会実施にとどまる）。 ・11/3、開設 20 周年記念イベントを開催し、地域と交流を図った。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2 月下旬から施設内への立ち入りを原則禁止とし、その後の外部との交流は中断している。
⑨大学や専門学校等からの実習やインターンシップを積極的に受け入れることで、将来の人材採用につなげていきます。	<p><今年度の受入れ状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・上越看護専門学校（老年看護学実習等）・新潟県立看護大学（地域包括実習） ・上越保健医療福祉専門学校（介護実習）・新潟青陵大学（社会福祉援助実習） ・長岡こども福祉カレッジ、日本こども福祉専門学校（保育実習）・大潟町中学校 2 年（職場体験）・大潟町小学校 4 年（総合学習）・はまっこ保育園（交流） ・大潟町中学校 3 年生（施設訪問、交流）・大潟町中学校奉仕クラブ・新潟医療福祉カレッジ（介護実習）その他 <p>*上記により、新卒介護求人（2 人）の採用につながった。</p>
⑩更なる経費削減に努めるとともに、施設設備の修繕等や非常災害・防犯に関する対策を進め、利用者及び職員にとって安全・安心かつ快適な環境の確保に継続的に取り組んでいきます。	<p><経費削減の取組状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・給与振込手数料の抑制・光熱水費の使用データを現場にフィードバックし、コスト意識を啓発・契約内容の見直し（新電力、エレベーター保守点検料、ペーパータオル等） <p><設備修繕や環境改善の実施状況等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・館内床の一部張替え及びワックス掛け・照明器具の一部 LED 化・正面玄関に手洗い場を新設・利用者トイレ扉の改修（開閉しやすい仕様に変更）・全館放送設備入替・居室エアコン設置・給水ポンプの入替・非常灯の入替他 <p><非常災害等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・台風 19 号に伴い上越市より福祉避難所開設の要請があり、地域住民 2 名（要介護者とその介助者）を受け入れた（10/12～13）

1 - 2) 在宅支援課

部門目標：地域（利用者）と保健・医療・福祉サービスをつなぎ、地域共生社会の実現に向けた役割を担うことをスタッフ一人ひとりが自覚し、その役割の遂行にチームワークを持って取り組みます。

重点目標	実施状況・期末評価
①上越市地域包括支援センター事業 受託法人として、市が目指す「誰もが居場所と出番を持って、共に支え合いながら、安心して暮らせる地域社会の実現」に向けて具体策を検討し、実践していきます。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の障がいのある方をも含めた見守りや後方支援の体制構築のため区総合事務所（保健師）や障がい者相談支援事業所（相談支援専門員）と協働して訪問やケース会議を開催し関係機関相互の役割や業務の理解を深めるとともに、関係構築に努めた。 ・障がい者の生活支援にあたっては、かかりつけ医の選定からリハビリ入院支援、退院後の障がい福祉サービスや介護保険サービスの利用相談、ケアマネジャーへの

	<p>移行支援等、高齢者以外の福祉対象者に対して区総合事務所と情報共有や連携を取りながら必要なケアマネジメントを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活困窮世帯の支援にあたっては、利用者と家族の支援を分担して、ケアマネジャーの後方支援を行うと共に、家族に対しては上越パーソナル・サポートセンターと連携して就労準備支援や家計再建支援につなげ、世帯全体の支援を図った。また、福祉サービスの導入や日常の金銭管理等の検討にあたっては上越パーソナル・サポートセンターから相談を受け、日常生活自立支援事業や成年後見制度の利用を検討した。 ・生活保護受給者や自宅の老朽化による住み替えが必要な方については、市担当者と区総合事務所、区総合事務所と地域包括支援センターが情報共有して適時支援ができる体制準備をしている。 ・上越市版地域包括ケアシステムの構築に向け、9月に大潟区、10、11月に頸城区において地域の多様な支援者の参加を得て、それぞれ地域ケア会議を開催した。各地域での自助・互助の取り組みと生活に密接に関わる共助・公助の状況を「知る」機会とし、「知る」ことで一緒に暮らしていくという意識を醸成して、地域に支え合いの輪とつながりを広げて、安心して暮らせる地域づくりを進めていくことを出席者と共有した。
<p>②フォーマルサービス（公的な支援）やインフォーマルサービス（NPO法人やボランティアグループ、家族・近所・地域の支援等）を問わず、様々な地域の資源を活用した居宅介護支援の実現に向けて実践していきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・徘徊の心配のある方や訪問販売の被害に遭うおそれが高い方への対応として、地域包括支援センターや駐在所に情報提供して連携した対応に努めており、地域の理解や協力を得ながらできる限り自宅での生活の継続を支援している。 ・独居や高齢世帯への支援では、緊急時に対応方法を関係者間で周知し、ふれあいランチサービスの利用や緊急通報装置の設置を提案し、定時の安否確認ができる体制を整えており、その成果として自宅で倒れた方の早期発見につながっている。 ・日中独居の方について、家族の理解や協力により、近隣住民による声かけ、見守り支援体制を最大限活かし、安心・安全な生活を支援している。 ・個別地域ケア会議や頸城区ケアマネ連絡会等に参加して、地域のサービス事業所や民生委員、区総合事務所と顔の見える関係を作り、相談や協力を得られる体制を整えている。それにより、民生委員から利用者に変化があった際に連絡が来るような関係作りが構築されており、地域からみた視点での気づきを情報提供が得られ、幅広い視点で支援につなげることが出来ている。 ・利用者のアセスメントの結果とニーズを踏まえて、多角的な視点を持って制度横断のケアマネジメントを実践しており、障がい分野の相談支援事業者と連携し障がい福祉サービス制度を併用して総合的に支援している。 ・利用者のアセスメントの結果とニーズを踏まえて、多角的な視点を持って制度横断のケアマネジメントを実践しており、障がい分野の相談支援事業者と連携し障がい福祉サービス制度を併用して総合的に支援している。
<p>③年齢や障がいを問わず、地域に暮らすみんなにとって、優しく気軽に便利な「街のコンビニ」的デイサービスの提供に向けて実践していきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢や障がいを問わず、利用の希望があれば対応する準備をしている。また利用時間の変更（昼食後帰り、15時、15時半帰り等）の希望に対しても、送迎のできる範囲で希望に添えられるよう努力し対応している。 ・数日前や前日の利用希望に対しても迅速に受け入れ、利用者や家族にとって頼れる身近な存在になれるよう職員間の意思統一を図り、努力している。できる範囲でご利用者のニーズに応えられるよう努力している。 ・人事異動により、10月より職員1名減となり、利用ニーズに応えられない時期が

	あつたが、3月に人員体制を整備することができ、再び利用者の幅広いニーズに柔軟に応えられるようにした。
--	--

1－2－1) 地域包括支援センター

部門目標：地域包括支援センターの基本的な視点（公益性、地域性、協働性）をもって「地域包括ケアシステムの深化・維持」から「共生社会の実現」に向けて地域や他分野の関係機関とも連携を強化していきます。

重点目標	実施状況・期末評価
①高齢者に限らず引きこもりや障害者に対する相談支援体制の整備に向けて他分野の関係機関との連携を構築し、強化していきます。	<ul style="list-style-type: none"> ・6/17 上越基幹相談支援センター職員と夕映えの郷相談支援担当職員と意見交換する機会が持て、地域の相談支援の現状を理解するとともに上越基幹相談支援センターの事業内容の確認や、地域共生社会の実現に向けた連携の在り方について双方の見解を認識することができた。 ・6/20 市主催の相談支援専門員と地域包括支援センター職員との合同研修会に参加して、双方の連携が必要になってきている現状を確認し合い、その中で双方の役割や業務の理解を深め、それぞれの専門性を活かしながら連携・協働する体制を構築し、実践していくことについて共通認識を図った。障がい者世帯の支援については担当の相談支援専門員が開催するケース会議に出席し、地域での理解者や応援者を増やし孤立させない、地域住民の一員として存在を認められ、普通に暮らしていけるよう支援していくことを明確にした上で、地域包括ケアシステムを進める地域包括支援センターとして地域づくりの役割を担っていることを再認識している。 ・市から「地域包括支援センターに障がい者の相談支援業務の付加」の検討にあたり、4～6月の3か月間の障がい者からの相談対応実績調査が行われた。当センターとして、高齢分野と障がい分野の一体的な相談支援体制の構築や連携の課題、新たな業務付加について意見や要望を報告した。 ・65歳未満で障がいのある方からの相談に対して当センターから夕映えの郷に連絡して同行訪問をしたり、夕映えの郷から医療面や介護保険制度についての相談を受けるなど、連携しながら支援する機会が増えている。 ・頸城区で実施した地域ケア会議に夕映えの郷の職員から出席してもらい、高齢者に限らず、地域で暮らすさまざまな住民を対象に関係者（団体）が連携していく意識を高める機会となった。 ・市から9月下旬に新年度の付加業務について正式に提示・説明を受けた。求められる機能や役割を担っていくために精神保健福祉士国家資格の取得を目指す職員や職能団体で実施されるさまざまな研修会に自主的に参加して自己研鑽に励む職員がおり、職員一人ひとりが重く受け止めて、各々が実践力を高めるために取り組んでいる。センターとしては、法人内の夕映えの郷との連携・協働を強めるために取り組んだ。 ・10月以降、毎月市主催の研修会に参加し、障がい分野や生活困窮者の支援に必要な知識を得るとともに理解を深めるために他地域包括支援センター職員とも合同研修会を開催し、新業務移行に向けた準備を進めた。 ・2月から上越基幹相談支援センターと上越パーソナル・サポートセンターから利用者の引継ぎに伴う情報提供があり、3月31日正式に引き継ぎを完了した。 ・次年度以降は新業務の対応にあたり、新たな関係機関との連携・協働を密に図っていくため広報活動による周知を図りながら新たなネットワークの構築に取り組んでいく。
②上越市認知症施策総合戦略（上越版オレンジプラン）に基づき、実態把握や地域の講座でリーフレットを配布し、認知症の予防や早期発見の重要	<ul style="list-style-type: none"> ・5/24 市主催の地域包括支援センター職員研修会に参加して、認知症に関する相談対応力を学び、職員のスキルアップを図り、新たに掲げる「認知症なんでも相談窓口」としての役割を果たせるよう努めている。当センターのリーフレットに「認知症なんでも相談室」を追記し、地域への周知を図っている。 ・認知症カフェ「うみまち茶屋」の運営・企画に関わり、その輪を地域全体に広げていけることを目指して、広く住民に広報し、必要な方には個別に声をかけ、参加者を増やしてきている。

<p>さなど認知症に関する正しい理解の普及に努めるとともに、地域で気軽に認知症の相談ができる 「認知症なんでも相談室」の役割を担います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症カフェは、大潟区地域支え合い事業の一つで住民組織「まちづくり大潟」より当法人が事業を受託して当センター大潟くらし支援室が実施している。今後の事業受託については地域支え合い事業の本来の趣旨を踏まえて委託元と協議を重ね、次年度以降は事業受託は行わず、運営を後方支援することで合意した。 ・地域の総合相談においては認知症に関連した生活課題についての相談が多く寄せられ、専門医への受診支援、認知症者への適切な対応方法や必要な介護サービスの提案等を行い、地域の中でできる限り長く安心して過ごせるように支援している。 ・地域での健康講座の中で、住民への啓発活動を実施しており、今後も継続して取り組んでいく。 ・上越市や上越市社会福祉協議会から認知症サポートー養成講座の依頼があり、大瀬小学校児童クラブ、大潟町小学校児童クラブ、大潟町中学校でそれぞれ実施した。他団体（事業所）にも協力を得て、紙芝居や寸劇など子供たちにも分かりやすく伝わる工夫をした。
<p>③上越市健康増進計画に基づき、地域の生活習慣病等の重症化予防、介護予防に向けた取り組みを行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実態把握訪問では対象者の健康状態の把握、通院や内服状況の確認、健診受診の有無等を行い、必要な方には当センターの看護師が訪問して、医療面や食事面、生活面から指導や助言を行い、定期的な訪問で経過を見ている。また、健康増進（介護予防）への取り組みが必要な方には地域の資源を紹介し、早い段階で予防や支援につなげられるよう意識して取り組んでいる。 ・地域で健康講座の依頼に対しては、時季に応じて注意が必要な疾病について寸劇を通じて楽しみながら分かりやすく伝え、身近なものとして受け止めてもらえるよう工夫している。 ・区総合事務所の保健師と同行訪問するケースも増えてきており、区総合事務所と一体となって住民の健康増進に取り組んでいる。 ・介護予防教室「だんだん広場」は週3日（うち週1回は地域支え合い事業の受託として）開催し、さまざまな工夫を凝らし、参加者の介護予防に取り組んできた。年2回認知機能テストや体力測定を実施し評価している。年度中の終了者は14名。そのうち新たに介護サービスに移行した方は4名でゆりかご荘の利用を開始した方は3名であった。参加者の満足度は高く、生きがいづくりや楽しみ、健康増進、介護予防の意識を高める等の成果が得られている。新型コロナウイルス感染拡大の影響で2月下旬より事業を休止しているが、利用登録者からは精神面の落ち込みや筋力低下などに関する相談があった。

*介護予防支援、介護予防ケアマネジメントの担当件数の推移

<大潟区>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
直接	61	57	57	51	46	47	47	47	45	45	48	49	600
委託	61	76	77	74	79	81	73	80	77	75	77	78	908
合計	122	133	134	125	125	128	120	127	122	120	125	127	1508

<頸城区>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
直接	49	50	50	51	53	50	50	46	42	42	48	51	582
委託	86	82	84	90	87	86	90	86	84	87	83	81	1026
合計	135	132	134	141	140	136	140	132	126	129	131	132	1608

<合計>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
直接	110	107	107	102	99	97	97	93	87	87	96	100	1182
委託	147	158	161	164	166	167	163	166	161	162	160	159	1934
合計	257	265	268	266	265	264	260	259	248	249	256	259	3116

*ひとり暮らし高齢者・高齢者のみ世帯名簿に基づく実態把握訪問の実施件数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
大潟	12	10	23	32	29	23	23	27	31	31	14	6	261
頸城	20	16	47	43	34	4	16	17	30	38	30	6	301
合計	32	26	70	75	63	27	39	44	61	39	44	12	562

- ・訪問の優先順位は、見守りが必要な方、新規実態把握者、80歳以上対象者とし、優先的に訪問した。
- ・市への定期報告は所定の書式があり、基本情報を聞き取り記載するが、初回訪問では対象者から十分に聞き取りができないことも多く、複数回訪問したのちに十分な内容で基本情報をまとめて提出した月に実績値として挙げているため実際には実施件数以上に訪問している状況がある。
- ・実態把握訪問は対象者が決められているが、地域には一般世帯でも見守りや支援を必要とする高齢者や家族に障がいや生活困窮、閉じこもり等の様々な課題を抱えている世帯がある。そのような方を支援必要者として位置付けて個別訪問をして状況把握に努めているが、実態把握訪問の対象外であるため件数に挙がっていない。
- ・今年度は一人毎月10件、年間720件以上を目指して取り組みを進めたが、3月には新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、市の指示や法人の判断で不要不急の訪問を休止する等の対応を行った。

*介護予防教室だんだん広場の利用登録者の状況（2年3月末現在）

	火曜クラス	水曜クラス	木曜クラス	合計
登録者数	31名	36名	35名	102名
要介護者数	1名	1名	0名	2名
要支援者数	2名	4名	3名	9名
チェックリスト	0名	2名	3名	5名

- ・介護予防教室（だんだん広場）は、大潟区地域支え合い事業の一つで住民組織「まちづくり大潟」より当法人が事業を受託して1クラス（水曜日）、法人独自に2クラス（火、木曜日）を実施した。運営・企画・実施は本体複合施設の管理職や当センター大潟くらし支援室の職員が中心的な役割を担っていたが、本来業務を圧迫していた課題があった。次年度からは本体複合施設の部署横断の協力体制下で運営していくことになり、大潟くらし支援室の職員は運営から外れることになった。
- ・2月下旬以降は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として事業休止が続いているが、利用登録者には自宅で取り組める体操や脳トレ等をインターネット配信や郵送等の手段で情報提供を行っている。

1－2－2) 居宅介護支援事業所

部門目標：地域包括ケアシステムを拡充した地域共生社会を見据えて、広い視野を持ち、制度や地域資源のつなぎ役を果たして個別支援の充実を目指すと共に、そこから抽出された地域課題の解決に向けた取り組みにも参画していきます。

(数値目標：担当件数140件／月以上)

重点目標	実施状況・期末評価
①利用者の生活の現状や暮らす地域を総合的にアセスメントし、専門的な見解を誠実に伝え、その上で利用者（家族）の自己決定を尊重しながら、その人らしい生活のありようを利用者（家族）と一緒に考えていく課題解決アプローチを実践します。	<ul style="list-style-type: none"> ・5/30、1/30 個別地域ケア会議では事例提供を行い、地域のケアマネジャーや介護サービス事業所の職員、民生委員、行政職員等の様々な立場で、それぞれの視点や角度から利用者像を捉えること（＝アセスメント）で利用者理解が深まり、新たな気づきを得られたことは職員個々のアセスメント力の向上につながった。3月は新型コロナウイルス感染症感染防止のため、各種外部研修が中止となったが、事業所内においては担当する事例の共有や検討を行った。 ・自宅での看取りの事例では、医療関係者や介護サービス事業者等と適時情報共有や情報連携を図りながら、利用者や家族の思いに寄り添う姿勢で丁寧な説明と意思確認に努め、利用者の意思に基づく支援を提供することができた。 ・利用者や家族の状況に応じて、適切な情報提供と説明、支援の提案を行い、自己

	<p>選択・自己決定を尊重した支援に努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族形態の変化や家族関係の希薄化等により、利用者や家族の抱える課題は複雑・多様化しており、多職種と連携しながら様々なアプローチを実践し、総合的な支援に引き続き努めている。 ・障がい福祉サービスから介護保険サービスに移行した利用者に対して、生活環境に変化があったものの、同一法人内での連携と強みを生かし、情報共有や役割分担をしながら、本人にとって精神的な負担の軽減や意向に添った支援を行っている。 ・退院支援では医療機関とも連絡調整を重ね、利用者や家族が希望する退院先へスマーズに退院支援が行え、その後の生活支援に努めた。
②平時から地域包括支援センターや介護事業者、医療機関、障がい支援機関等と連絡を取り合い生活状況や課題、ニーズ等の情報共有につとめ、地域共生社会を目指した連携と協働による高度なアプローチを目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の個別支援から世帯全体を支える支援へ視野を広げた中で、それぞれの役割分担を意識して、関係する地域包括支援センターや行政等と情報共有して、チームアプローチで支援に努めた。 ・障がい福祉サービスと介護保険サービスを併用する利用者や、2号被保険者のサービス利用にあたっては、障がい分野の相談支援機関や行政等と連携に努め、広い視野と他分野の専門的知識を持ち合わせて対応できるよう努めた。 ・区の保健師や保健所と連携して一緒に訪問したり等、多職種で関わるケースがあった。介護保険制度だけではなく、障がい福祉制度や医療制度にもつなぎ、多職種で協働しながら支援した。 ・支援困難ケースへの対応では、事業所内の相談や支援チーム内の多職種と情報交換・情報共有に努めながら連携して対応している。 ・支援で困った場合には、地域包括支援センターにも相談して、多くの意見や助言を得て検討を重ね、広い視点を持って柔軟かつ多様な対応が出来るよう調整した。 ・利用者だけでなく、家族支援の視点を持って、必要に応じて多職種と連携しながら対応している。
③自ら進んで学び、事業所の枠を超えた介護支援専門員同士や他専門職との学びの場を設け、共に質の向上を図りながら、多様性かつ個別性の高いニーズに対して適切なケアマネジメントを実践します。	<ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員の法定研修の受講や地域包括支援センターが主催する研修、職能団体における各種研修会の参加、職員個々の自己研鑽を通じて、他の事業所の専門職と共に学び合い、専門性や倫理観を高め合う良好な関係づくりに努めた。 ・当複合施設で開催している認知症のケア向上に向けた研修会「みんなで学ぼう会」の企画・運営に携わり、地域全体の認知症ケアの向上、認知症の人のケアマネジメント力の向上を目指して取り組みを進め、他職種との交流やつながりを築いた。 ・他法人が運営する居宅介護支援事業者との合同研修会等にも参加し、地域の介護支援専門員同士及び多くの専門職と共に学び合い、研鑽に努めた。

(数値目標：担当件数140件／月以上)

*居宅介護支援（受託した介護予防支援および介護予防ケアマネジメントの担当件数を含む）の担当件数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
合計	150	151	163	167	159	166	159	158	145	149	134	145	1846

- ・職員一人当たりの標準担当件数に達してきている状況であり、適正なケアマネジメントを提供でき、質を担保するために9月より新規利用者の担当を見送ったが、1月より少しづつ新規受け入れを再開した。年度末で職員退職に伴い、担当者の交代や職員の入れ替わりにより様子を見ながら実施した。
- ・冬期間は入院者、終了者も多く、担当件数の変動も大きかった。
- ・職員は引き続き、現担当利用者の適正かつ丁寧なケアマネジメントに努めており、ゆとりを持って業務に当たっている。
- ・新年度には一人ひとりの日々の振り返りとサービスの質の向上を目的として利用者、家族へ利用満足度調査を実施する予定である。

1-2-3) デイサービスセンター

部門目標：関係機関や職員間の連携を密にし、利用者のニーズに合わせ柔軟に対応できる支援を目指します。

(1日型数値目標：利用者数 26名以上／日 半日型 登録数 30人以上)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
(人)	23.9	24.9	25.8	26.1	26.1	25.5	24.8	24.3	23.9	23.1	23	22.9	24.5

(半日型数値目標：登録者数 30人 以上)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
(人)	23	23	22	24	23	22	23	25	22	24	24	24	23.1

・10月から介護職員1名減になり、今までと同じ対応ややり方ではデイサービスの業務が遂行できなくなった。新規利用者の受入れを一時見送り、現利用者のサービスの質が低下しないよう、そしてニーズに対してできる限り応えられるよう生活相談員の管理業務や介護職員の直接業務の調整をしながら職員一丸となって取り組んだ。利用中止の件数も増えたことから営業活動に取り組み、1月からは新規利用者の受入れを可能な範囲で進めた。3月からは職員1名が補充され、これまで通りの運営にシフトを戻した。

・これまで地域住民との交流や地域貢献を目的に、介護予防教室の講師や認知症カフェの運営に職員を派遣して協力してきたが、9月から職員派遣を中止して本来業務に職員が集中できるよう課内で調整をした。3月には人員の補充がなされ職員配置数はこれまで通りに戻り、安定した運営が行える体制となった。次年度からは再び介護予防教室への講師派遣を検討し、一般介護予防事業（概ね65歳以上の人）～市総合事業の通所サービス（チェックリスト該当者、要支援1・2の人）～介護保険の通所介護（要介護の人）と、連動性の中で誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるようその役割を担っていく。

・また次年度からは主に身体に障がいがある人を対象者に利用の受入れが行える「基準該当生活介護」サービスの指定を受ける方向である。実際の受入れが行えるよう準備を進め、地域のニーズに応じて身近なデイサービスで必要な支援を提供し地域共生の一翼を担っていく。

重点目標	実施状況・期末評価
①利用者のニーズを把握し希望に沿った活動・提供時間でのサービスを行い、様々なサービス利用開始のきっかけ作りや、利用の継続に繋がるよう支援します。	<ul style="list-style-type: none"> 利用者のニーズに耳を傾け、現在行っている活動だけでなく、希望があった活動（卓球や縫い物、歌等）に対しても行えるよう努力した。また、利用時間の変更（昼食後帰り、15時、15時半帰り等）に対しても、送迎のできる範囲で希望に添えるよう努力した。デイサービス利用後、ショートステイ利用に繋がる方もおり、利用時の対応など情報を共有することができた。 一時期利用者数の増加により、今までの方法では対応できない事も増えてきたので、その都度対応策を検討した。 心身状態の変化により、半日利用を1日型に移行したり、1日利用を半日型に変更したりと、ニーズに応じてサービスの提供時間や内容の変更・調整を行っている。
②空き情報の更新や営業活動等積極的に行い、新規依頼時には迅速に対応し、通所介護及び総合事業の毎月の利用延べ人數676人（毎日の利用者数26名以上）、半日型デイサービス（主に総合事業の通所型サービスAの対象者）の登録数30人を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> 4～7月はお試し利用の依頼には迅速に対応することができた。また、利用に動きがあつた場合は、空き情報を更新し各事業所に配るよう努力した。 10月から介護職員1名減となり、7月末時点の利用者人数以上を受け入れることが困難となった。新規利用者の積極的な受入れを見送り、現在利用されている利用者の支援を最優先に考え、ニーズ（利用回数を増やす等）に応じることができるよう調整した。 10月から介護職員1名減になった影響で利用中止の件数も増えたことから営業活動に取り組み、1月からは新規利用者の受入れを可能な範囲で進めた。3月からは職員1名が補充され、これまで通りの運営体制に戻った。次年度は積極的な営業活動と外部への取り組み状況の情報発信に努め、「利用したい」と思っていただける魅力のあるデイサービスを目指し、職員一丸となって努力していきたいと考えている。

*おためし利用人数の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1日型	2	1	3	3	0	0	0	0	0	2	4	2	17
半日型	1	1	0	1	0	0	1	2	0	2	2	0	10
新規契約数	3	2	3	4	0	0	1	2	0	3	4	2	24

*延べ利用人数の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1日型	622	671	643	707	707	639	670	633	623	602	575	596	7,688
半日型	120	132	136	163	157	153	156	162	138	127	135	137	1,716
合計	742	803	779	870	864	792	826	795	761	729	710	728	9,404

③職員間のコミュニケーションを大切にし、お互いに思いやりを持って、相談しやすく働きやすい環境作りを行い、笑顔の絶えないより良いサービス提供を目指します。

- ・5月に職員アンケートを実施し6月に集計し職員に提示した。良いところは現状を維持できるよう努力し、改善した方が良いところは少しずつだが改善できるよう、職員同士話し合いながら対応している。改善点については迅速に行えていないため、努力が必要である。
- ・10月から介護職員1名減となり、今までと同じ体制や対応では業務が回らず、利用者一人ひとりに行き届いた心が通う支援が困難となってきている。今後どのように現職員数で利用者に対して最善の支援を行なうのか職員全員で課題を共有している。業務の見直しや整理、改善するべき部分は改善していく必要があり、10月に職員アンケートを実施して職員全員で具体的な対応策を検討している。
- ・出勤する職員数が減ったことで特に送迎や入浴の業務に時間がかかるようになり、またその他の業務においても職員一人ひとりの負担が増え、心にゆとりが持てずに職員間のコミュニケーションも不足気味であった。
- ・2月から記録の電子化が導入され、慣れない事での負担はあったが、徐々に記録の効率が図られ全体的な負担は軽減した。また、効率の上でできた時間が、職員間のコミュニケーションの時間にも充てられ、改善傾向にある。
- ・3月には職員1名補充となり、新職員にはさまざまな事を教えながら「oneチーム」の精神を醸成し、お互いを思い合いながら利用者への支援に励んでいる。

1－3) 高齢介護課（特別養護老人ホームしおさいの里）

部門目標：利用者、職員共に笑顔で、安心して楽しみややりがいのある生活が送れるよう、心や思いに寄り添い、適切なサービス提供の実現を目指します。また福祉分野を越え、地域の中の一員としての役割にも目を向けサービス展開を目指します。

(長期入所部門数値目標：利用率 97.5%/年)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
(%)	97.1	97.0	96.0	95.6	97.5	97.0	95.1	93.7	96.7	94.9	95.1	94.2	95.8

(短期入所部門数値目標：利用率 94%/年)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
(%)	85.6	72.0	75.8	75.3	79.3	71.9	72.8	75.3	63.4	60.2	60.6	60.8	71.1

重点目標

①利用者の基本的人権を尊重し、安心・安全な生活が継続でき、その人らしく笑顔で生活できることを大切に

実施状況・期末評価

・利用者の立場に立ち、安心・安全な生活を送れるように支援できている。職員同士が連携を図れるよう努力している。その人らしく笑顔で生活できるよう、利用者の声を大切にしている。

ながら支援します。	<ul style="list-style-type: none"> ・人権意識向上委員会・ケア向上委員会の取り組みや評価を通して、利用者の人権について意識し、援助するよう努めた。また「その人らしく生活できる」ことに少しでも近づくよう利用者の希望を伺ったり、職員から提供したりすることも行った。 ・今後も心や思いに寄り添い、やりがいを持ち適切なサービス提供に努める。小さな事からコツコツと継続して行う。 ・看取り介護後も「その人らしい最期」であったか職員間で振り返ることもできている。
②認知症ケア担当者が中心となり、認知症の理解を深め、一人ひとりが自分らしく安心した生活が送れるような支援を目指します。認知症研修等の参加にも努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症研修会やひもときシートを活用した事例検討を行い、本人の気持ちに寄り添い考えた。その時に出たケア内容を実施しているが、実施できていないケアもある。毎月の委員会で経過報告し、取り組みを継続していくことで少しずつ「その人らしい生活」に向かっているように思う。 ・「みんなで学ぼう会」も計画的に行っている。外部の事業所職員と一緒に学び、交流の機会となり、情報交換できている。 <p>研修に参加しやすい環境を整え、認知症に対して理解を深められるよう働きかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度認知症ケア・アドバイザー派遣事業に参加。7丁目の利用者対象にチームで取り組み実施できた。
③専門職としての自覚を持ち、個々の役割と責任を認識しながら、職員間のコミュニケーションを大切にし、風通しの良い、働きやすい職場環境を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間のコミュニケーション不足を感じることがあった。職員が悩んでいることに気付いてあげられなかった。専門職としての自覚と責任を持ち、働きやすい職場環境を築けるよう努めた。 ・今後も普段からの声掛けを意識し、少しの変化に気が付いた時には話を聞く。また、内容によっては職員間で検討する場を設ける。 ・責任を持って個々の役割を果たしてもらうことを基本として、一人で抱え込みず、職員同士で協力し合って行く。 ・前期不足と感じたコミュニケーションを取るよう心掛け、各職種との連携を図りより良い関係性を作れるよう努力した。職員体制において不足があったが、様々な場面において他職種協同の元、支援に当たることができた。
④地域に暮らす高齢者や障害者、地域住民の活動の場としてボランティア活動やその他の社会活動を受け入れることにより、利用者の活動の輪も広がり、可能性の引出しや楽しみ、やりがいを持つことで、社会との結びつきの更なる充実を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアは受け入れできている。ボランティアの方々と協力して取り組めた。利用者の楽しみややりがいに繋がり、能力の再構築にも繋がり、参加した利用者の生き生きとした姿が見られている。ボランティアの方の希望する事とのマッチングが難しい。無償のボランティアは増えない現状にある。 ・人材確保が難しい中、リネン交換専属等介護職員でなくともできることを専門に行ってもらえる方を確保できるよう取り組む。 ・10月後半よりシルバー人材派遣よりリネン交換業務を担っていただくことにより、介護職員の業務負担軽減に結び付いている。また利用者と接する時間も少しづつ増えている。施設支援員を増員することで軽作業等行ってもらえることにおいても業務負担軽減に繋がっている。
⑤一人ひとりが自身の資質向上のため、積極的な研修参加や自己研鑽に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に参加するよう努め、自身の向上に繋げるよう努めている。 ・他職員にも参加の声掛けを行っていく。
⑥記録の電子化、移乗支援用具等の導入を進め、より一層の業務軽減や仕事の効率化等、負担軽減を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ・記録の電子化については、委員会と各職種にて導入方法を検討している。まだ現場レベルまでは達していない。少しづつではあるが現場職員に周知し、今後の業務もかなり簡素化されると期待する。 ・ケア向上委員会にて、移乗支援用具の活用について検討し、実際に業者を招き研

	<p>修を実施したり、委員会での研修主催にも繋げ、職員に発信することができた。新しい事に対しての取り組みは難しいこともあるが、導入することで腰痛予防等業務負担軽減にも繋がっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も業務軽減や安全に支援ができる方法を検討していく。 ・毎月2回の電子化会議を開催し、各部署代表者が出席している。開始に向け段取り良く進めていく。一部導入開始し、進めている。5月には完全移行予定。
--	--

1-3-1) しおさいの里・2丁目

部門目標：利用者が心身ともに健康で充実した生活を送ることができるよう、職員が協力し合い、真摯に支援していきます。	
重点目標	実施状況・期末評価
<p>①日々の生活支援の中で、感染症の予防・安全への配慮を行いながら、年間・月の行事の企画や季節を感じていただけるような飾りつけを行い、利用者に楽しんでもらえるよう努めます。利用者個々のニーズには、できる限り応えていきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚疾患による受診件数の増加が見られたが、疥癬等の感染症ではなく、収めることができた。また、インフルエンザ・感染性胃腸炎等の発症も防ぐことができた。 ・骨折事故が発生し、その要因の中で、職員の見守り・付添いの在り方・考え方を問われ、考え・見直す機会を職員間で共有できた。 <p>事故発生後はしっかり対策を立て、対応・評価することで繰り返さないよう、しっかりと認識し、努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者担当職員が中心となり、できる限り利用者の要望に応えるよう努めている。 ・2丁目内の飾りつけ等、雰囲気作りが不十分であった。来年度は改善すると共に、食堂内の環境作りにも力を入れていく。
<p>②言葉の表現やトーン・対応の仕方等、不適切ケアに繋がらないよう職員全員で気を付けます。また、定期的に職員自身の介護・援助の仕方を振り返る機会を設け、ケアの質が維持・向上していくよう努めます。</p> <p>介護の基本となる整容（髪・髭・眼鏡・衣類）や姿勢（食事の姿勢・栄養滴下時の臥床姿勢）には、特に気を配ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人権委員会・ケア向上委員会が共同で目標を掲げ、日々のケアを評価している。個々の達成度の認識に差があることが分かり、連絡帳での呼びかけや個人レベルでの指導を行っているが、差を埋める作業は今後も継続していく必要がある。 ・介護の基本（整容・姿勢等）が当然のように行えるよう、職員の意識・技量を上げていく。

1-3-2) しおさいの里・3丁目

部門目標：利用者が安心し、健康な生活を送れるよう援助し、職員にとっても働きやすく、職員一人ひとりが個性を発揮できる環境作りに努めます。	
重点目標	実施状況・期末評価
<p>①利用者が健康で充実した生活が送れるよう、感染症の予防、また事故防止に努め、安心、安全なサービスを提供します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対応、事故対応については両委員が中心となりマニュアルの周知を行い、職員意識しながら利用者支援ができた。 ・6月に骨折事故があり、対応方法の見直しを行い、今後繰り返しがないよう周知した。新しく配属になった職員にもしっかりと伝え、利用者や環境の把握ができるよう努めた。 ・10月にも骨折事故あり。ケアの方法や対応の見直しを実施した。骨折事故に関しては家族に謝罪し要因分析及び今後の対応、再発防止に取り組みについて説明おこなった。また市にも報告している。
<p>②職員一人ひとりが考えを言い合え</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員一人ひとりが担当利用者の課題等を自身の考えで提起し、他職員や他職種と

るコミュニケーションを大切にした環境、また相談しやすく働きやすい環境作りを目指し、職員の連携が密になるよう努めます。	<p>の相談もできている。欠員時には職員一人に負担が集中してしまうことがあるので、今後どのように対応するか検討必要である。職員一人で問題を抱えないようフォローできる体制、負担感を感じないよう勤務を工夫する。各部署との連携等も含め、働きやすい環境を作っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員欠員状態にて日々の業務について変更や試みを行うこともある。職員間連携を取っているが不安感もあり、主任中心となりコミュニケーションを心掛ける。 ・職員と話し合い業務変更を行い時間外の削減に努めた、現在も時間外あるが時間的に少なくなっている。
--	---

1-3-3) しおさいの里・6丁目、7丁目

部門目標：利用者一人ひとりが安心して楽しみのある生活が送れるよう支援し、職員にとっても働きやすい職場環境作りに努めます。

重点目標	実施状況・期末評価
①日々の支援の中で、利用者一人ひとりの楽しみややりがいを探りながらサービス提供し、楽しんでいただけるよう努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・外出や行事等に参加し、楽しんでいただけている。日頃の余暇活動の働きかけは業務の中で時間を見つけており、業務中心となってしまい発展が少ない。 日々のコミュニケーションやスキンシップの中で、利用者一人ひとりの楽しみややりがいを探り、情報共有を行う。職員全員で協力し、時間を見つけ個々の利用者に働きかけていく。 ・外出や行事、レクリエーション活動は前期同様楽しめている。 ・日頃の余暇活動の働きかけは職員体制が安定せず少ない。 ・季節に合わせた行事を行い、楽しんで頂けた。今後も、楽しみとなる活動を計画し、働きかけていく。
②新体制に伴い、職員間のコミュニケーションを大切にし、業務体制を工夫しながら働きやすい職場環境作りに努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・新体制としてお互いの部署を行き来し連携を図っているが、全職員に研修を付けることが難しく数名の職員のみとなっている。チームワーク良く連携していくには今少し時間を要する。職員間でのコミュニケーションにおいては言葉不足等もあった。 ・今後は主・副任が中心となり、お互いの部署の連携を図れるよう体制を工夫していく。相談しやすく働きやすい職場環境作りに努めていく。また、相手に伝わり易い言葉かけを意識して行う。 ・6・7丁目連携体制を取り、協力し合っている。職場環境の安定を図っていく。 ・お互いの丁目間を行き来し、連携が図れるようになってきている。コミュニケーションを大切にし、チームワーク良く、相談しやすい職場環境作りをしていく。

1-3-4) しおさいの里・5丁目

部門目標：何度も利用していただけるように心のこもったサービス提供に努めます。

重点目標	実施状況・期末評価
①利用者やご家族の意向や苦情に真摯に向き合い、気持ちに寄り添った対応を行い、安心して利用できるよう努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・新規の方が多く、安心して利用いただけるよう努めた。苦情はなかった。緊急入所の方2名の受け入れを行った。 ・新規の方は今後の利用に繋がるよう努めると共に、全ての利用者の方に丁寧な言葉遣いや思いやりのある態度で接するよう努める。 ・中期も苦情は無し。 ・適切ではないと思われる対応には振り返り、職員間で意見を出し合った。5丁目としての対応の統一化を図り、より快適に安心して利用して頂けるよう努める。

	<ul style="list-style-type: none"> ・一年通して苦情なし。
②職員間の連携、コミュニケーションを大切にし、情報の共有を図り、認知症の理解を深め、適切なサービスの提供に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・中途採用職員に対する研修が、量・質共に不十分で退職に繋がったケースがあった。認知症研修1名参加あり。 ・研修体制を確立させると共に、職員の対応の統一化を図る事が今後の課題である。 ・前期の反省を生かし、中途採用職員には研修を多く行うことができた。 ・職員間の連携やコミュニケーション面では課題を感じる部分もある。 ・9月モニタリング会議にてひもときシートを実施した。 ・職員間の連携を図る為、午前中に参加できる職員で申し送りを行うこととした。
③7丁目多目的室や特養の空きベッドを活用し、利用率アップにつなげ、毎月の利用延べ人数340人を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ・長期間の利用者が老健入所や入院、亡くなる等で新規利用者が毎月複数名ずつあるも、空床が埋まらず利用率の低下となった。(4~6月延べ人数281名) 入所待ちでロングの方2名、うち1名は6丁目利用中。希望が重なる週末は7丁目多目的室活用している。 ・3丁目、6丁目の空きベッド活用した。 ・老健入所や死亡等で毎月の利用延べ人数は達成できていない。 ・職員退職のため11月から欠員となる。他丁目とも連携しながら利用者数の調整や工夫をしていく。 ・施設内の発熱等の感染症やコロナウイルスの対応で利用キャンセルがあった。 ・毎月の平均延べ人数261人であった。

1－3－5) 看護

部門目標：利用者が安心して過ごせるよう健康面から支えて行きます。	
重点目標	実施状況・期末評価
①日々の生活から看取りケアまで、他職種と協力し合い、安心・安楽なケアを提供するように努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・H31.4月～R2.3月でしおさいの里で看取った利用者12名。 ・最期の選択は、家族、本人の気持ちを相談員、ケアマネジャー、との連携の下で入所時から、家族の方に意向確認を聞かせてもらい、状態が変わった段階で、その都度、家族の方の気持ちを聞き、家族の揺れ動く気持ちに寄り添う事が出来た。今後も看取りまで安心・安楽に過ごす支援ができるよう継続して努めていきたい。 ・喀痰吸引等研修(50時間研修)の実地研修指導も行い、福祉施設での安全な医行為の環境を整える為に取り組んだ。 ・8月エンジェルセット代金1,480円を10月～1,000円と見直した。 ・外用薬(軟膏、点眼)を安全に管理できるようケア委員を中心に取り組み利用者様の外用薬管理チェック体制を介護士と協力して作った。
②看護師として、嘱託医・病院・薬局と連携し、体調管理面から支えて行きます。	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患面からも、体調管理に医師や病院との連携が多くなっている。 ・末期癌、腎瘻チューブ管理、難病の方の進行に伴う延命処置等の選択など、いずれも、病院受診での検査結果、病院医師、嘱託医からの説明をうけ、本人や家族の方はその先の治療、処置を決める事が出来た。 ・今後も、医師や病院に必要な情報を伝えていく。 ・病院も医師不足等の状況なので、どう進めれば安心な生活が送れるか利用者様の体調情報、意向情報から、アセスメントし医療に相談していきたい。 ・薬局の薬剤師とも、沢山の薬剤の安全な管理に努めていく。

1－3－6) 機能訓練

部門目標：利用者様の思いを汲み取り、他職種との連携を図って援助を行って行きます。	
重点目標	実施状況・期末評価
①専門職としての視点から、利用者の能力や可能性を念頭に置き、安全な生活環境や充実した生活を送れるような支援に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね達成できたが、問題点や課題もある。経管栄養者の適切な姿勢については個別に検討中である。個別に検討した姿勢を周知して実施できるようにする。 ・適した座位や姿勢、車椅子等に関しては助言を行い取り組めた。トイレの立ち上がりや立位保持、移乗に関してはノーリフト機器の使用は検討を継続。
②ボランティアの方と連携を図り、クラブ活動等を通して、利用者の楽しみややりがいを提供していきます。	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね連携を図れて行えた。リハビリ援助の中に取り込んで実施できた。 ・畑や音楽レクリエーション、ちくちく倶楽部等のボランティアと連携を図りリハビリ援助の中に取り込んで実施できた。
③地域貢献活動（だんだん広場等）を通して、地域の方々の健康増進に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日のだんだん広場での体操に取り組んでいる。 ・中期も継続して取り組んでいる。 ・2月後半と3月はコロナウイルス感染症で中止としたが、おおむね取り組めた。

1－3－7) 相談支援

部門目標：地域の方々や利用者、ご家族、施設職員が繋がりを大切にし、利用者一人ひとりが最期の時まで自分らしく、楽しみのある生活が送れるような支援を目指します。	
重点目標	実施状況・期末評価
①利用者のアセスメントを充実させ、ご家族や施設職員と情報を共有します。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の面会時に情報提供や家族からの情報を収集し、連携に努めている。アセスメント用紙も活用されている。 ・3月から面会制限で直接話はできないが電話で近況報告や情報を共有した。電話でのやり取りが多くなった。 ・今後はネット配信できる環境も必要となるか。手紙や電話での連絡も継続する。
②地域に暮らす方々のボランティア活動を受け入れ、利用者が楽しみややりがいを持てるクラブ活動や外出を通して、地域との繋がりを目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に暮らす方々と繋がり活動できている。ちくちく倶楽部や音楽レクリエーション・園芸クラブや畑を通して、楽しみややりがいのある活動を行えている。外出については各丁目職員の付き添いもできている。外出についてもボランティアの協力を働き掛けて行く。個人外出も実施できている。 ・冬季の外出は難しいため、アロマハンドマッサージを1月から3月まで3回予定したが2回となった。ちくちくクラブも1月は行えた。
③業務軽減や仕事の効率化や書類の見直し等、少しずつ負担軽減できる考え、取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> ・業務軽減にはいたっていないが、職員間で軽減できることを検討している。今後電子化になることにより、業務軽減されることが期待できる。仕事の効率化を考え整理していく。チームでの取り組みを継続していく。個々で変更できるものは見直し、取り組んでいく。 ・5月からの電子化を目指し、徹底できるようにする。やりながら不具合のところは改善していく。 ・個々で変更できるものは見直し、負担軽減に取り組んでいる。

1－4) 障害支援課（さいはま園）

部門目標：我が事・丸ごとプロジェクトを推進し、多種多様な障害や年齢に応じたニーズに対応できる施設を目指します。	
重点目標	実施状況・期末評価
①利用者の「自分でできる」という思いを大切にした自立支援と、「なりたい自分」を目指す自己実現を支援し、QOLの向上を目指します。	・定期的にご利用者様とモニタリングやカンファレンスを行い、施設生活について話し合いの場を継続している。また、支援方法については3ヶ月毎に評価を行い、進捗状況を確認している。後期では、ご家族様のカンファレンス同席もあり、ご本人・ご家族・他職種間とで協議ができた。
②「人権尊重と尊厳の確保」を実践し、人権意識向上委員会の3原則を遵守した一人ひとりを大切にする施設を目指します。	・毎月、人権や権利擁護に関する目標を掲げ、日々、実践を行っている。部署内で注意が必要なもの、課題などを抽出し、具体的な取り組みや、るべき姿を評価し、毎月のモニタリング会議で意見交換にて人権意識向上に努めている。
③福祉施設として担っている役割を発信し、さいはま園の取り組みや長所、福祉の魅力がコミュニティに浸透するよう努めます。	・ホームページや広報を利用し、さいはま園の取り組みを紹介する等を目指したが、年間5件程度の報告であった。今年度は、特に緊急受診や入退院が多いこと、コロナウィルスの影響もあり園行事等もままならず、さいはま園独自の取り組みに向かうことができなかつた。
④障害者の高齢化、重度化、障害や疾病の重複化などの課題を見直し、高齢・障害サービスを持つ法人として連携体制の構築に取り組みます。	・高齢化（80代）、重度化（医療行為の増加）、重複化（専門医の受診を要する）などが顕著となっている。この間、前述する理由から、障害者の終の棲家のある方の検討を実施し、看取りも実施した。今後はさらに法人内の連携を高め、入所待機者の在り方（高齢待機者の介護保険移行や、緊急性の高い方の入所優先）などの課題に取り組んでいく。
⑤職員同士が相談しやすい環境で「協議（目的を合わせる）・協力（力を合わせる）・協調（心を合わせる）」のチーム力で働きやすい職場を目指します。	・モニタリング会議の勤務時間内の開催を目指し、現在も、利用者に理解をあおぎ、日中の勤務時間中の会議を実施している。これによる時間外減少、業務負担軽減は継続できた。課題は、できるだけすぐに検討する場を設け、利用者支援の困難時にも他職種連携と本人を交えたカンファレンスの開催で、課題の長期化や、支援の悩みを回避できた。

1－4－1) 障害者支援施設（生活介護・施設入所支援）

部門目標：「ひとりのニーズに機能する施設」を目指します。													
(生活介護数値目標：利用率 98%/年)													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
(%)	97.3	95.0	100.0	97.0	92.0	89.1	89.6	86.1	90.0	90.0	89.0	92.8	92.3
(施設入所支援数値目標：利用率 97%/年)													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
(%)	96.0	95.0	99.3	95.3	90.3	88.0	87.1	84.5	89.5	90.0	87.9	90.3	91.1
重点目標		実施状況・期末評価											
①その人を支えているもの（人）・大切にしているもの（人）を理解し、個別支援計画に基づいた「一人ひとりを重視した支援」を行います。		・年齢や障害特性がさまざまな当園では、ライフステージが様々であり、身体状況や能力の他に生活習慣や、年代ごとの生活は特に個別性が高い。価値観の違いも大きく、要望もさまざまであることから、特に面談では個々の理解に努め、ケアプランに反映できるよう今後も継続する。											
②利用者の要望や相談事に真摯に取り組み、「安心できる暮らしの場」として機能します。		・今年度、入所者からの苦情はなかった。要望や相談はいつでもできるよう、課長・相談員の「相談支援室」は常に開放し、出入り自由としている。そのため、個別の相談や日ごろのちょっと聞いてほしいなどで訪室する利用者もいる。今後も継続し、											

		「聴ける」体制として構築していく。
③利用者や家族の意向を反映させた「求められている支援（重度化・高齢化・医療的ケア）や体制」を構築します。	④利用者の可能性を広げる取り組みや活動の場の拡大を目指し、夕映えの郷との連携により交流の場を広げます。	・今年度は特に緊急受診、複数名の同時入院が多く、食事介助者の増加、医療的ケアの増加、活動的な日常から安静重視の日常などが求められた。入院期間も昨年度のおよそ3倍となり、重度化が顕著である。今後の課題としては、気管切開や胃瘻、増加する頻度の喀痰吸引、発作対応などと、どう向き合うかが求められている。 ・昨年より、当園の疥癬や風邪症状の流行など、感染症が原因とされる体調不良により、交流を中止せざるをえない状況が続いた。また、相談員欠員により窓口業務が滞り、連携が難しい状況となったため、合同行事は1回程度となり、活動が停滞している。今後も利用者の体調を見ながら活動を検討していく。
⑤業務軽減を図る機器やさらなる福祉支援用具の導入により、福祉職の重労働を見直し、一層の効率化と業務軽減を図ります。		・移乗支援用具、離床支援ベッドに続き、体位交換マットの導入等で業務軽減が図られるようになった。引き続き、器具の導入を検討していく。ナースコールの記録化では、最高月は全体で3400回程度（1日224回程。全体ではおよそ6分に1回のコール）となり、改めて業務量の多さも可視化された。浴室やトイレなどのコールも含むと通常の3大介護以外の対応も大きいこともわかった。具体的な対応策として、利用者の不安感やさみしさによるコールには寄り添いながらも、利用者全体の要求の量を図りながら、必要な時間数を振り分けるような対応を検討している。

1-4-2) 短期入所（ショートステイ）

部門目標：コミュニティ拠点としての施設を目指します。												
(数値目標：利用率 90%/年)												
												合計
												85.5
												合計
												85.5
重点目標			実施状況・期末評価									
①緊急時や災害時の福祉避難所として機能し、円滑な受け入れ対応を目指します。			・福祉避難所対象者3名のうち、すべての方が短期入所の定期利用につながった。そのため、緊急時での受け入れもスムーズに対応することができるようになった。また、前期での福祉避難所開設では、準備体制もスムーズに行うことができた。									
②重度の障害がある方や医療的ケアを必要とされる方を支える施設として、行政や相談支援事業所と連携を図り、受け入れ体制を整えます。			・上記の方も含め、短期入所では、医療的ケアとして膀胱瘻、ストマ、経管栄養等を対応している。痰吸引についても受け入れる障害者施設がなく要望が聞かれるため、今後も受け入れ体制を継続する。ただし、今年度は入所者が重症化しているため、医療行為のある利用者の利用日数増加はできなかった。									
③レスパイト機能だけでなく、将来の施設生活に安心感が持てるよう、入所待機の場としても機能します。			・入所希望者については、施設入所や入院状況にない方は、可能な限り短期入所として受け入れを実施している。今年度は、入所待機者の入所前体験として利用につなげたかったが、制度の狭間と他制度間の兼ね合いなどで体験につなげることはできなかった。各制度間の調整は、保険者として行政の対応を確認していたが、調整役の協力は得られず、当園の負担が大きかった。引き続き、行政との連携につなげていく。									
④共生型サービスは、制度の動向や利用者状況を見据え、体制の構築につなげます。			・デイゆりかご荘にて、障害者の受け入れ準備態勢として、基準該当サービスを開始することになった。地域包括・居宅部門でも障害者の相談支援が開始される。当部署として必要時には協力体制を構築する。									
⑤利用者の多様性（障害種別の多様化・家庭環境の変化など）に応じた体制を整え、障害についての知識を学			・知的障害を持つ方の入所もあり、幅広い障害者支援が求められる。本人理解には、短期入所やご家族様の助言等を生かしていく。障害支援は、医療機関への相談や、支援技術につながるよう学習していく。									

び、専門性を向上させます。

1－5) 管理課

部門目標：利用者の「喜び」を引き出せるサービス提供に努めます。「効率・効果的な経営」を行うと共に、利用者及び職員が「安全・安心・快適」に過ごせる環境づくりに努めます。

重点目標	実施状況・期末評価
①施設利用者が、安心・安全・快適に生活ができるようサービス向上に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・4月から散髪業者の来園回数を2回から5回/月に増やし利用者のサービス向上に努めた。 ・4月機械室ラインポンプの交換、注気ポンプの交換修理を行い安定した湯の供給に努めた。 ・利用者の利便性向上の為、修理に際し4月と6月に2丁目トイレ扉2ヶ所をアコードィオンカーテンに変更した。 ・デイサービスと2丁目の浴槽循環配管洗浄作業を6月に実施。 ・7丁目デイルーム手洗い場を7月に自動水栓化。36.9万 ・正面玄関に7月に手洗い場を設置した。またうがい用の紙コップを置くことで、外部からの感染予防に努めた。30万 ・7丁目居室の温度対策として、10月に居室に冷暖房機を取り付けた。33万 ・新館の湿度が高く過ごしにくい事から、10月に除湿器購入し湿度対策を行う。 ・経年劣化に伴い、10月に3.6.7丁目の手洗い場の水栓取り換え実施。12万 ・施設正面ロビーの環境整備として、大テーブルとソファを廃棄処分し来客者や利用者が快適に過ごせる環境づくりに努めた。 ・給水ポンプ経年劣化により11月に入替実施。400万 ・さいはま園浴室天井ヒーター経年劣化により12月に入替。20万 ・全館の非常灯、経年劣化により36ヶ所1月に交換。147万 ・さいはま園利用者エアコン風よけ1月に設置。 ・さいはま園給湯ポンプ1月に入替。22万 ・エレベーター2台、経年劣化により2月に修理。165万
②利用者の声に耳を傾け、食事に対する満足度を高めていきます。（利用者に寄り添う、食事提供に努めます。）	<ul style="list-style-type: none"> ・厨房では2ヶ月毎に郷土食メニューを取り入れ、日本全国の郷土食料理をユニット毎に選びバラエティ豊かなメニューづくりに努めた。 ・利用者個人毎に主菜2種類のメニューから選択してもらう「選択メニュー」を年間11回実施し食事に対する満足度を高めるよう努めた。 ・利用者の声に耳を傾けるよう、10月に施設利用者を対象に嗜好調査を実施した。調査結果を調理員及び他職種と共有し、これからも利用者に寄り添う食事提供、また食事満足度を高めるよう努める。 ・川渡餅、クリスマスケーキ、旬の果物等で利用者に食事を通して季節感を感じてもらえるよう努めた。 ・バラエティ豊かな食事提供を目指し、新メニューを毎週1回以上入れる事を1年間継続できた。
③職員、法人組織間の連携を通して効率・効果的な経営に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・春先の疥癬対応では、洗濯委託先の夕映えの郷と情報共有し協力を得ながら洗濯業務を行った。 ・会計業務では法人間で連携し振込手数料等の経費削減に努めた。 ・コロナウイルス等による衛生用品等の不足に対し、商品の入荷状況を早めに現場

	<p>に知らせる、マスクの在庫状況を確認する、またボラルームに品薄商品をストックする等、不足事態にならないよう手配し、現場と連絡連携を密にした。</p>
④職員が安心・安全に働くよう職場づくり及び環境整備に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 丁目デイルーム、6 月に事務所の LED 照明化の工事実施。 ・ デイサービス、さいはま園、相談支援室、6 丁目作業準備室、女子更衣室の LED 照明化を 7 月に工事実施。 ・ 保安員と運転員が協力し駐車場枝木の剪定と除草作業を隨時行っている。 ・ 働く職場環境の観点から 8 月に施設設備等に不備が無いか点検項目を設け点検を行った。 ・ 上記内容について職員及び管理職間で 9 月情報共有し環境改善に努めた。 ・ 衛生委員会を通じ H30 年のしおさいの里職員の年休取得日数を公表することで、職員の年休取得率を上げるよう試みた。平均 8.7 日（取得率 52.3%） ・ 受動喫煙対策に伴い、喫煙ルールの見直しも併せて取組、衛生委員会で「たばこのに関する法律の一部改正」「たばこの健康影響」等の説明を行い職員からの意見を聞いた。9 月に施設が対策案等を提示しそれに対し意見を聞くことになった。 ・ 受動喫煙対策に伴い、喫煙ルールについて施設案を示し、10 月にそれについて職域毎に意見を出してもらい、11 月の衛生委員会で協議。12 月から「受動喫煙対策及び喫煙ルールの見直し」を実施した。 ・ 净化槽の蓋、劣化により危険性あるとの判断で 7 ケ所入替実施。41 万
⑤安定的・発展的な事業経営ができるよう、業務の改善に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏期空調使用に備え、光熱水費の使用量を前年比較した資料を作成し、6 月に職員に適正温度とコスト削減に意識してもらうよう努めた。 ・ 電気代削減の為、7 月に新電力契約の見直しを検討中。 ・ 記録の電子化による配線工事等施設整備を 12 月に実施。395 万 ・ 記録の電子化に伴い複合機等の整備実施。 医務室にカラー複合機を設置・さいはま園コピー機に FAX 機能を追加。
⑥職員一人ひとりが生き生きと働くよう、職員の健康と精神的健康の増進を図り活力ある組織づくりを推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当施設で行われる定期健診と同時に「風しん抗体検査」が行われるよう対象職員への啓発を含め関係機関と調整し 5 月に健診を実施した。 ・ 夏場の食中毒時季に備え 6 月に厨房栄養士による食中毒予防研修会を実施した。 ・ 衛生委員会にて安全運転、食中毒の予防、熱中症予防の啓発活動を行った。 ・ 職員の心の健康の観点から 8 月に「心と体の健康を目指した快適な職場づくりのために」職域毎にストレスや疲労等に関するチェック項目の他に意見を上げてもらった。介護現場からは時間外の問題や休みに関する意見が上がった。 ・ 上記内容について職員及び管理職間で 9 月に情報共有し環境改善に努めた。 ・ 10 月に外部講師によるメンタルヘルス研修「信頼関係形成のコミュニケーション」を行い職員の心の健康づくりに努めた。参加者：38 名 ・ 10 月に職員転倒による労災発生、衛生委員会を通じ情報共有し再発防止に努めた。 ・ 職員の定期健康診断とストレスチェックを 11 月に実施。 ・ 1 月から年休が新たに付与されるにあたり、改正労働基準法による年休取得義務化について衛生委員会で再度職員に説明することで、法律に沿った年休管理を行うよう努めた。

1－5－1) 廚房

部門目標：「食べる喜び」を感じて頂き、おいしく安全な食事の提供に努めます。

重点目標	実施状況・期末評価
①他職種との連絡調整を密にし、工夫や配慮を加え、心のこもった食事提供に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> 現場でのトロミ剤の入れ過ぎで下膳時の食器にトロミの塊の付着が目立ったため、ユニットの食事委員にトロミの適正量の周知を依頼した所、改善され全体のトロミ剤の使用量も少なくなった。これからもトロミの適正量の周知を定期的に行っていく。 製氷機の入れ替えの検討に際し、7月に介護現場と連携し意見を聞く等して入替を行った。26.5万 他職種で協力の下、10月に口腔ケア研修会を実施し利用者の口腔ケア向上に努めた。 トロミ剤のサンプルを介護職にも試してもらったが、トロミが付きにくく、量をたくさん使うので不採用となった。今後も良い商品があれば、試していきたい。 12月から産休に入った職員の後任として、短時間パートの方とシルバー人材センターの方に来ていただいたが、他職種協力のもと事故なく業務を継続する事ができている。
②選択メニューや郷土食、新メニューなど楽しみにしていただける食事を心がけます。	<ul style="list-style-type: none"> 5月の郷土食に5丁目の利用者が選んだ島根県の「こくしょう煮」を提供したところ、懐かしいと大変喜ばれた。今後も食事委員と協力しながら、珍しくておいしい郷土食を提供していく。 9月の郷土食では愛媛県のたこ飯を提供したが、少し硬いという意見はあったが、ほとんどの方が「珍しくておいしい」と召し上がっていただけた。 敬老会での祝膳は好評であった。 郷土食は11月に大分県のがめ煮を、1月は北海道の石狩汁を、3月は秋田県の稲庭うどんを提供し、喜ばれた。 12月20日と1月27日の夕食に生寿司を提供し、大変喜ばれた。また、さいはま園のみ鍋の代わりに3月11日の昼食に生寿司を提供した。 11月30日には川渡餅を、クリスマスにはケーキを、お正月には餅（食べられる方のみ）を提供し、季節を感じていただけた。 新メニューを毎週1回以上入れる事が継続できた。
③衛生管理を徹底し食中毒を予防します。	<ul style="list-style-type: none"> 吸気口の清掃とフィルター交換を6月に行い、吸気量が改善された。今後は定期的に清掃を行う。 厨房内に小バエが多数飛来していたため、7月に補虫機の設置をすすめ小バエが多く発生する6ヶ月間、設置することにした。 食器洗浄機の不具合が多くあり、7月に業者と連絡を取り合い改善した。衛生面からも蒸気が厨房内に広がらず、換気扇に入っていくよう改善された。 厨房オゾン発生装置を7月に修理し、安全な食材を使用して調理が継続出来るようにした。33.4万 小バエ対策で捕虫機を8月に2台設置した。 専門業者による換気扇の清掃を8月に行った。 床の一部改修工事を9月に行った。36万 下膳時にシンクとワゴンの両方を使用していたユニットがあつたが、業務軽減の目的でワゴンのみで下膳することとなり、シルバー人材センターの方でも容易に下膳ができ、残業なく業務ができるようになり掃除等の衛生管理も強化された。

1－5－2) 事務

部門目標：業務改善を常に念頭に置き、効率的な経営に努めます。

重点目標	実施状況・期末評価
①光熱水費、経費等のコスト削減に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> 給与振込について手数料が発生することになったため、これまでの1人2口座までを1人1口座に限定し、手数料を抑えた。 夏期空調使用に備え、光熱水費の使用量を前年比較した資料を作成し、職員に適正温度とコスト削減に意識してもらうよう努めた。 電気代削減の為、新電力契約の見直し契約業者を変更した。 エレベーター保守点検料の見直しを行った。 ペーパータオルの納入業者と商品を変更することで単価を下げた。（年間21万削減） 節水装置の定期メンテナンスを2月に実施、節水状況の情報共有を行った。
②情報を共有し、円滑な外部対応を行います。	<ul style="list-style-type: none"> 他職種からの伝達事項等を事務所内で迅速に共有し、円滑に対応できるよう心がけている。引き続き、他職種とも連携を取り、情報共有に努める。 外線対応について、当該職員不在時でも取り次ぎ先で対応してもらうことにより、待機時間を減らした。 施設内で開催された利用料不納者に対する対応説明会に請求業務担当者が参加し相談職と共通の認識のもとに利用料不納の解消をすべく体制を整えた。 11月に行われた法人記念式典では、受付業務や来客者の案内に際し情報共有を密にし円滑な外部対応に努めた。 コロナウイルス等による感染防止対策として、利用者家族、取引業者の対応について施設全体で情報共有し受付時に検温する、取引業者の施設内搬入を制限する等、施設の方針に沿った受付外部対応を行っている。
③労務情報の共通管理により、効率的な情報共有と迅速な対応に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> 採用・退職・欠勤等労務情報の共有により、効率的な準備や事務処理の状況確認に活用している。 事務職員12月末退職による入れ代りにより、サービス低下にならないよう事務所全体でカバーし業務の効率化に努めた。
④経理業務において、会計事務所との連携により、正確で効率的な業務を行います。	<ul style="list-style-type: none"> 会計事務所の巡回監査と的確なアドバイスにより、正確な会計処理を遂行している。
⑤他職種の業務を支える職場環境と組織づくりを目指します。	<ul style="list-style-type: none"> 労務等の専門知識を生かし、職員からの問い合わせにも迅速に対応し、職員が安心して業務に集中できるよう情報提供に努める。 事務員間の業務担当を変更することで組織強化と職員のスキルアップを行う。 コロナウイルス等による衛生用品等の不足に対し、商品の入荷状況を早めに現場に知らせる、マスクの在庫状況を確認する、またボラルームに品薄商品をストックする等、不足事態にならないよう手配し、現場と連絡連携を密にした。
⑥法人間で経理業務や経費削減を効率・効果的に行うよう努めます。	<ul style="list-style-type: none"> 団体会費等、共通する振込先へは合算振込とし、手数料を抑制している。今後も該当する処理があれば、手数料削減と業務効率のバランスを見ながら、同様に行う。

1－5－3) 保安、宿直、清掃

部門目標：利用者と職員が安心・安全・快適に過ごせるよう各職種間と連携を取りながら効率・効果的な業務に努めます。	重点目標	実施状況・期末評価
①保守・修繕において職種間と連携し、効率効果的な業務に努めます。		<ul style="list-style-type: none"> ・厨房内の修理作業、空調設備に係る工事は現場と連携を密にし、利用者や職員の業務に負担がかからないよう業者との調整に努め修繕を行った。 ・照明の LED 化に伴い、作業効率を考えながら介護現場と連携を密にして業者との調整を行った。（さいはま園、支援課事務所、更衣室他）23.9万 ・働く職場環境の観点から施設設備等に不備が無いか点検項目を設け点検を実施、結果をもとに保安員が現場職員から聞き取りをおこない対応し環境改善に努めた。 ・施設電気年次点検に際し、各職域と連携を取りながら実施した。今年度は業者点検が予定より長引いてしまったが、全館放送を使い現場に状況を隨時知らせたことで大きなトラブルはなかった。 ・台風被害による 7 丁目非常口窓と、7 丁目居室雨漏りについて保安員が現場と連携を取り修理の応急対応を行った。 ・施設給水ポンプ入替を 11 月に実施、作業時間中は断水となる為時間帯等を現場と調整しスムーズに入替実施できた。 ・施設車両冬タイヤに交換する際、事前に現場連絡する等連携を取りながら行えた。保安員と運転員が協力することで作業の効率化が図られた。
②設備機器の更新に際し、効率化が図られるよう努めます。		<ul style="list-style-type: none"> ・6 丁目手洗い場入替と同時に正面玄関の手洗い場設置工事を行うことで、完成納期が短縮できた。 ・ベッドとタンスの入替の必要性を検討、次年度予算化し入替することに決まる。入替に際しては単年度による入替実施とせず、複数年に渡り計画的に実施することで現場と調整をとった。
③整理、整頓、清潔に努めます。		<ul style="list-style-type: none"> ・冷房時季の前に館内空調のフィルター清掃を行い清潔に努めた。今後も定期的に行う。 ・職員下駄箱（厨房脇）の整理を 1 月に行い、不明な靴を職員に周知後処分した。
④安全と清潔を心がけ、利用者と職員が快適に過ごせる環境づくりに努めます。		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の感染情報を清掃員が共有することで、疥癬の感染拡大防止に対応した清掃業務を行うことが出来た。 ・さいはま園から 6 丁目、7 丁目の床一部について経年劣化による張替を実施。 ・全館床ワックス洗浄を業者依頼し、7 月に館内の床が清潔になった。今後も定期的に行うことで床の保護と清潔に努めたい。54.5万 ・運転員と協力し 7 月に高圧洗浄機を使用してベランダ床の清掃を実施。 ・保安員と運転員が連携し春先から夏場に草刈りや枝木の剪定作業を行い環境美化に努めた。 ・正面玄関の花壇について来年度の整備を踏まえ、9 月から 10 月に保安員と運転員が協力し掘りおこし作業を行う等準備を進めた。 ・コロナウイルス等感染症対策として、運転員、清掃員が協力連携し手すりやドアノブの清掃を行っている。

令和元年度事業別利用実績

1. 高齢福祉部門

<介護老人福祉施設:特別養護老人ホームしおさいの里>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
延人数	要介護1	150	156	190	144	155	158	133	136	155	155	145	155	1,832
	要介護2	180	186	150	186	186	180	155	150	155	155	145	155	1,983
	要介護3	690	713	690	705	744	720	748	732	796	815	735	789	8,877
	要介護4	900	910	825	901	899	829	907	865	929	867	836	825	10,493
	合計	3,030	3,127	2,995	3,081	3,142	3,027	3,067	2,922	3,116	3,058	2,867	3,037	36,469
実人数	要介護1	5	6	7	5	5	6	5	5	5	5	5	5	64
	要介護2	6	6	5	6	6	6	5	5	5	5	5	5	65
	要介護3	23	23	23	23	24	24	25	26	26	27	27	26	297
	要介護4	30	30	28	30	29	28	30	30	30	30	29	28	352
	要介護5	38	38	38	38	38	38	37	37	36	35	36	36	445
	合計	102	103	101	102	102	102	103	102	102	102	102	100	1,223
運営日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
利用率(%)		97.1	97.0	96.0	95.6	97.5	97.0	95.1	93.7	96.7	94.9	95.1	94.2	95.8
平均要介護度		3.87	3.87	3.86	3.88	3.87	3.86	3.89	3.86	3.84	3.83	3.84	3.85	3.86

<通所介護・総合事業:デイサービスセンターゆりかご荘>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
延人数	事業対象者	55	43	42	49	51	46	50	44	43	36	38	38	535
	要支援1	68	61	65	69	66	69	68	74	52	52	49	48	741
	要支援2	34	55	52	54	51	40	41	33	40	37	32	35	504
	要介護1	213	257	232	273	265	233	259	259	266	242	246	259	3,004
	要介護2	209	230	227	243	251	245	252	196	187	186	198	198	2,622
実人数	要介護3	103	90	99	120	115	107	88	105	98	96	90	76	1,187
	要介護4	29	32	33	35	36	30	38	55	51	50	28	38	455
	要介護5	31	35	29	27	29	22	30	29	24	30	29	41	356
	合計	742	803	779	870	864	792	826	795	761	729	710	733	9,404
	事業対象者	11	9	9	10	10	9	9	8	8	6	8	7	104
	要支援1	11	9	11	10	10	10	11	12	10	10	11	11	126
平均利用数 (利用者数/運営日数)	要支援2	6	7	8	7	7	6	6	6	5	5	6	76	76
	要介護1	29	32	31	33	32	30	30	33	32	30	28	28	368
	要介護2	23	22	23	24	27	25	24	20	19	22	21	21	271
	要介護3	9	7	8	9	9	9	8	10	12	11	10	8	110
	要介護4	3	3	4	5	5	5	4	6	6	6	5	4	56
運営日数	要介護5	3	3	2	2	3	3	3	4	4	4	4	38	38
	合計	95	92	97	100	102	98	95	98	97	94	92	89	1,149
利用率(%)		77.1	80.4	84.2	87.1	86.5	85.6	82.7	82.6	79.1	73.0	76.8	76.2	80.9
平均要介護度		1.71	1.70	1.72	1.69	1.71	1.69	1.69	1.75	1.73	1.79	1.72	1.76	1.72

* 平均要介護度:要支援1=0.375、要支援2=1で計算

<(介護予防)短期入所生活介護:しおさいの里ショートステイ>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
延人数	要支援1	2	0	7	2	0	3	3	3	0	0	0	20	
	要支援2	0	3	0	0	0	4	0	0	0	0	0	7	
	要介護1	50	40	48	42	31	28	33	46	36	35	36	32	457
	要介護2	92	109	84	109	111	63	49	56	49	49	44	59	874
	要介護3	91	52	67	86	110	114	138	113	86	88	82	76	1,103
実人数	要介護4	65	56	60	32	35	39	38	41	52	37	38	47	540
	要介護5	8	8	7	9	8	8	10	12	13	15	11	12	121
	合計	308	268	273	280	295	259	271	271	236	224	211	226	3,122
	要支援1	1	0	2	1	0	1	1	1	0	0	0	0	7
	要支援2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	
平均利用数 (利用者数/運営日数)	要介護1	9	7	8	8	6	6	5	7	6	6	7	7	82
	要介護2	13	15	12	15	16	13	12	11	9	8	6	6	136
	要介護3	7	4	5	9	9	12	12	11	11	10	9	9	109
	要介護4	7	6	7	4	5	4	5	6	4	3	4	5	60
	要介護5	1	1	1	1	1	1	2	2	2	3	2	3	20
合計		38	34	35	38	37	38	37	38	32	30	29	30	416
運営日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
平均利用数 (利用者数/運営日数)		0.1	0.1	0.2	0.1	0.0	0.2	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
要介護		10.2	8.5	8.9	9.0	9.5	8.4	8.6	8.9	7.6	7.2	7.3	7.3	8.5
合計		10.3	8.6	9.1	9.0	9.5	8.6	8.7	9.0	7.6	7.2	7.3	7.3	8.5

利用率(%) 85.6 72.0 75.8 75.3 79.3 71.9 72.8 75.3 63.4 60.2 60.6 60.8 71.1

平均要介護度 2.62 2.54 2.54 2.47 2.59 2.69 2.76 2.66 2.82 2.77 2.73 2.77 2.66

* 平均要介護度:要支援1=0.375、要支援2=1で計算

<居宅介護支援:しおさいの里居宅介護支援事業所>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業対象者	7	8	9	10	9	9	9	8	9	8	7	6	99
要支援1	12	11	12	13	13	16	15	15	14	14	11	14	160
要支援2	15	15	19	21	17	13	15	13	10	11	10	12	171
要介護1	51	55	57	54	50	54	52	53	51	49	48	48	622
要介護2	33	32	34	35	36	40	34	31	29	29	27	31	391
要介護3	21	19	21	22	20	22	22	21	19	23	19	18	247
要介護4	10	10	10	11	13	11	10	13	10	12	9	12	131
要介護5	1	1	1	1	1	1	2	4	3	3	3	4	25
合計	150	151	163	167	159	166	159	158	145	149	134	145	1,846

平均要介護度 1.63 1.59 1.57 1.59 1.64 1.61 1.61 1.70 1.63 1.71 1.67 1.72 1.64

* 平均要介護度: 要支援1=0.375、要支援2=1で計算

(前年度1.75)

<介護予防支援:しおさいの里地域包括支援センター>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業対象者	46	41	40	42	39	36	33	32	31	30	37	40	447
要支援1	84	86	87	89	90	92	90	90	86	88	87	89	1,058
要支援2	127	138	141	135	136	136	137	137	131	131	132	130	1,611
合計	257	265	268	266	265	264	260	259	248	249	256	259	3,116

平均要介護度 0.62 0.64 0.65 0.63 0.64 0.65 0.66 0.66 0.66 0.66 0.66 0.64 0.63 0.64

* 平均要介護度: 要支援1=0.375、要支援2=1で計算

(前年度 0.64)

2. 障害支援部門

<障害者支援施設さいはま園:生活介護>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延人数	区分2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分4	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	23	270
	区分5	66	69	66	69	69	66	69	66	69	69	69	810
	区分6	340	345	352	354	331	304	320	291	322	322	290	3,906
	合計	428	437	440	446	423	392	412	379	414	414	374	4,986
実人数	区分2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	区分5	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
	区分6	16	15	16	16	15	15	16	14	14	14	14	181
	合計	20	19	20	20	19	19	20	18	18	18	18	229
	運営日数	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	21	270
	利用率(%)	97.3	95.0	100.0	97.0	92.0	89.1	89.6	86.1	90.0	90.0	89.0	92.8
	平均障害程度区分	5.74	5.74	5.75	5.74	5.73	5.72	5.72	5.71	5.72	5.72	5.72	5.73

<障害者支援施設さいはま園:施設入所支援>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延人数	区分3以上	576	589	596	591	560	528	540	507	555	558	510	560
	運営日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	366
	利用率(%)	96.0	95.0	99.3	95.3	90.3	88.0	87.1	84.5	89.5	90.0	87.9	90.3

<障害者支援施設さいはま園:短期入所>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延人数	区分1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分4	29	29	32	20	15	11	0	0	5	7	0	148
	区分5	0	0	0	0	0	22	18	22	22	23	22	154
	区分6	19	26	25	25	27	26	27	25	27	31	33	324
	区分1(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分2(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分3(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	48	55	57	45	42	59	45	47	49	59	62	586
実人数	区分1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分4	2	2	2	2	2	1	0	0	0	1	1	13
	区分5	0	0	0	0	0	1	1	1	2	1	1	9
	区分6	4	6	4	5	2	5	6	7	4	4	5	56
	区分1(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分2(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分3(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	6	8	6	7	4	7	7	8	6	6	7	78
	運営日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	366
平均利用数 (利用者数/ 運営日数)	障害者	1.6	1.8	1.9	1.5	1.4	2.0	1.5	1.6	1.6	1.9	2.1	1.7
	障害児	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	合計	1.6	1.8	1.9	1.5	1.4	2.0	1.5	1.6	1.6	1.9	2.1	1.7
利用率(%)	80.0	88.7	95.0	72.6	67.7	98.3	72.6	78.3	79.0	95.2	106.9	93.5	85.5
平均障害程度区分 (障害児除く)	4.79	4.95	4.88	5.11	5.29	5.25	5.60	5.53	5.55	5.44	5.42	5.57	5.28

年度別利用率の推移(過去10年間)

1. 高齢部門

<介護老人福祉施設:特別養護老人ホームしおさいの里> 定員:104人

	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度
運営日数(日)	365	366	365	365	365	366	365	365	365	366
延べ利用者数(人)	35,491	34,745	34,987	35,060	35,599	36,671	36,601	37,044	36,556	36,469
1日平均利用者数(人)	97.2	94.9	95.9	96.1	97.5	100.2	100.2	101.5	100.2	99.6
利用率(%)	97.2	94.9	95.9	96.1	97.5	97.6	96.4	97.6	96.3	95.8
平均要介護度	4.11	4.12	3.94	3.86	3.72	3.69	3.75	3.82	3.83	3.86

* 平成27年8月1日より100人から104人に定員変更

<(介護予防)通所介護:デイサービスセンターゆりかご荘> 定員:37人

	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度
運営日数(日)	313	314	311	313	313	314	313	313	312	314
延べ利用者数(人)	7,330	7,650	6,628	6,577	6,444	7,380	8,232	7,995	8,356	9,404
1日平均利用者数(人)	23.4	24.4	21.3	21	20.5	23.5	26.3	25.5	26.8	29.9
利用率(%)	78	81.2	71	70	68.6	78.3	71.1	69	72.4	80.9
平均要介護度	2.45	2.29	2.56	2.7	2.36	2.35	2.23	2.21	1.98	1.89
	2.2	2.13	2.42	2.54	2.14	2.11	2.09	2.05	1.8	1.72

* 平成28年4月1日より30人から37人に定員変更

* 平均要介護度:平成22年度より要支援(1・2)を含めた数値(下段)。

<(介護予防)短期入所生活介護:しおさいの里ショートステイ> 定員:12人

	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度
運営日数(日)	365	366	365	365	365	366	365	365	365	366
延べ利用者数(人)	4,073	4,326	4,682	4,572	4,934	4,173	4,018	4,077	3,967	3,122
1日平均利用者数(人)	11.1	11.8	12.8	12.5	13.5	11.4	11	11.2	10.9	8.5
利用率(%)	79.6	84.4	91.6	89.5	84.5	85.6	91.7	93.1	90.6	71.1
平均要介護度	2.83	2.81	3.14	3.3	3.1	2.98	2.83	2.87	2.94	2.67
	2.81	2.8	3.12	3.28	3.08	2.93	2.81	2.86	2.9	2.66

* 平成26年4月1日より14人から16人に定員変更

* 平成27年8月1日より16人から12人に定員変更

* 平均要介護度:平成22年度より要支援(1・2)を含めた数値(下段)。

2. 障害部門

<身体障害者療護施設さいはま園:入所> 定員:20人 * H23. 3. 31廃止

	平成 22年度
運営日数(日)	365
延べ利用者数(人)	7,083
1日平均利用者数(人)	19.4
利用率(%)	97

<障害者支援施設さいはま園:生活介護> 定員:20人 * H23. 4. 1開始

	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度
運営日数(日)	270	269	269	269	270	269	269	269	270
延べ利用者数(人)	5,312	5,309	5,166	5,212	5,381	5,303	5,182	5,298	4,986
1日平均利用者数(人)	19.6	19.7	19.2	19.3	19.9	19.7	19.2	19.7	18.5
利用率(%)	98.4	98.7	96	96.9	99.6	98.6	96.3	98.4	92.3

<障害者支援施設さいはま園:施設入所支援> 定員:20人 * H23. 4. 1開始

	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度
運営日数(日)	366	365	365	365	366	365	365	365	366
延べ利用者数(人)	7,117	7,125	6,908	6,916	7,128	7,033	6,929	7,094	6,670
1日平均利用者数(人)	19.4	19.5	18.9	18.9	19.4	19.2	18.9	19.4	18.2
利用率(%)	97.2	97.6	94.6	94.7	97.4	96.3	94.9	97.2	91.1

<短期入所:さいはま園ショートステイ> 定員:2人

	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度
運営日数(日)	365	366	365	365	365	366	365	365	365	366
延べ利用者数(人)	603	615	428	500	643	667	561	547	659	626
1日平均利用者数(人)	1.6	1.6	1.1	1.4	1.7	1.8	1.5	1.49	1.8	1.7
利用率(%)	82.6	84	58.6	68.5	88.1	91.1	76.8	74.9	90.3	85.5

入所利用者の状況(令和2年3月31日現在)

1. 特別養護老人ホーム しおさいの里(定員:104人)

(1)年齢構成

年齢	男性	女性	男女計
~59	1	0	1
60~64	0	1	1
65~69	3	1	4
70~74	5	4	9
75~79	4	2	6
80~84	6	19	25
85~89	9	16	25
90~94	1	18	19
95~	0	10	10
合計	29	71	100
平均年齢	78.6	88	83.6
最年長	89	103	103
最年少	55	61	55

(2)要介護度

	男性	女性	男女計
要介護1	2	3	5
要介護2	2	3	5
要介護3	7	19	26
要介護4	8	20	28
要介護5	10	26	36
合計	29	71	100

* 平均要介護度:(3.85)

(3)保険者

上越市	(大潟区)	22	96
	(柿崎区)	14	
	(頸城区)	12	
	(吉川区)	6	
	(上記以外)	42	
上越市以外の市町村		4	
合計			100

2. 障害者支援施設

さいはま園(定員:20人)

(1)年齢構成

年齢	男性	女性	男女計
~39	1	0	1
40~49	0	1	1
50~59	4	1	5
60~69	7	3	10
70~	1	1	2
合計	13	6	19
平均年齢	56.1	60.3	57.4
最年長	71	70	71
最年少	29	47	29

(2)障害程度区分

	男性	女性	男女計
区分1	0	0	0
区分2	0	0	0
区分3	0	0	0
区分4	1	0	1
区分5	2	1	3
区分6	10	5	15
合計	13	6	19

* 平均障害支援区分 :(5.74)

(3)保険者

上越市	(大潟区)	5	17
	(柿崎区)	3	
	(頸城区)	1	
	(吉川区)	2	
	(上記以外)	6	
上越市以外の市町村		2	
合計			19

3. 医療の状況

(1)入院の状況

しおさいの里	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
延べ入院者数(人)	35	23	27	23	41	22	23	29
総入院日数(日)	767	730	604	546	955	548	427	682
平均入院日数(日)	21.9	31.7	22.3	23.7	23.2	24.9	18.6	23.5

さいはま園	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
延べ入院者数(人)	9	17	21	8	11	14	6	6
総入院日数(日)	187	408	409	184	269	366	185	344
平均入院日数(日)	20	24	19.4	23	24.4	26.1	30.8	57.3

(2)経管栄養管理が必要な利用者数の推移(しおさいの里・さいはま園)

H23.3.31 現在	H24.3.31 現在	H25.3.31 現在	H26.3.31 現在	H27.3.31 現在	H28.3.31 現在	H29.3.31 現在	H30.3.31 現在	H31.3.31 現在	令和元年度
26	22	21	18	14	11	14	12	14	14

(3)痰の吸引が必要な利用者数の推移(しおさいの里・さいはま園)

H27.3.31 現在	H28.3.31 現在	H29.3.31 現在	H30.3.31 現在	H31.3.31 現在	令和元年度
28	31	14	37	33	32

4. 事故報告等

4-1. 事故報告の状況(報告先:高齢部門・各保険者、障害部門・新潟県)

元年度	特養 入所	短期 入所	通所 介護	障害 支援	合計
骨折	3	1			4
誤薬・誤飲				1	1
その他(窒息、内因死)					0
計	3	1	0	1	5

	特養 入所	短期 入所	通所 介護	障害 支援	合計
30年度	1	1			2
	2	1		3	6
	1	1			2
	4	3	0	3	10

4-2. 感染症等発生報告

インフルエンザ	利用者 職員	1 11	(通所1)
感染性胃腸炎	利用者 職員	0 3	

30年度	利用者 職員	4 14
	利用者 職員	0 0

5. 退所者の推移

しおさいの里	~平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	累計
施設内で逝去(看取り)	115	5	24	15	12	14	14	10	12	10	11	242
医療機関で逝去	53	1	3	5	5	5	1	13	2	10	4	102
自宅復帰又は自宅で看取り	3					1	1			1		6
医療機関等へ転院(長期入院等)	13			1	2	1	1			1		19
合計	184	6	27	21	19	21	17	23	14	22	15	369

さいはま園	~平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	累計
施設内で逝去(看取り)	1								1		1	3
医療機関で逝去	4				1	1		2	1		2	11
自宅復帰(地域移行)	2											2
医療機関等へ転院(長期入院等)	2			1	1	1						5
合計	9	0	0	1	2	2	0	2	2	0	3	21

6. 入所待機者の状況(過去10年間)

(しおさいの里)

	上越市					他 市町村	合計
	大潟区	柿崎区	頸城区	吉川区	左記 以外		
H23.3.31現在	89	98	49	51	168	10	465
H24.3.31現在	82	84	56	63	172	10	467
H25.3.31現在	93	94	69	81	205	17	559
H26.3.31現在	95	92	67	88	188	17	547
H27.3.31現在	84	67	48	76	146	15	436
H28.3.31現在	37	35	20	27	71	7	197
H29.3.31現在	44	40	29	24	65	6	208
H30.3.31現在	44	30	23	23	73	6	199
H31.3.31現在	52	49	29	24	77	9	240
R2.3.31現在	47	50	36	17	80	9	239

(さいはま園)

上越市	他 市町村
12	
10	
13	
13	
12	
11	2
12	1
9	1
11	1
11	1

事業・職種別職員数一覧

R2.3.31現在

事業別 職種別		特養	障害支援	通所介護	地域包括 支援	居宅介護 支援	合計
統括施設長・事務長	正職員	2					2
	臨時職員						0
	パート職員						0
課長(地域包括兼務1)	合計	2	0	0	0	0	2
	正職員	2	1		1		4
	臨時職員						0
事務員	パート職員						0
	合計	2	1	0	1	0	4
	正職員	1	1				2
生活相談員 (サービス管理責任者、 介護職兼務含)	臨時職員						0
	パート職員	2					2
	合計	3	1	0	0	0	4
介護支援専門員	正職員	3	1	3			7
	臨時職員						0
	パート職員						0
社会福祉士	合計	2	0	0	1	4	7
	正職員				3		3
	臨時職員						0
看護職員	パート職員						0
	合計	0	0	0	3	0	3
	正職員	5	2		1		8
機能訓練員	臨時職員		1	1			2
	パート職員	1		4			5
	合計	6	3	5	1	0	15
介護職員(生活支援員)	正職員	1	1	0			2
	臨時職員	40	9	1			50
	パート職員	9	2	6			17
管理栄養士	合計	9	1	1			11
	正職員	58	12	8	0	0	78
	臨時職員						0
調理員	パート職員						0
	合計	1	0	0	0	0	1
	正職員	4	2	1			7
施設支援員	臨時職員						0
	パート職員	1					0
	合計	5	2	1	0	0	8
清掃員	正職員						0
	臨時職員						0
	パート職員	4	1				5
宿日直代行員	合計	4	1	0	0	0	5
	正職員						0
	臨時職員						0
保安員	パート職員	1					1
	合計	1	0	0	0	0	1
	正職員						0
運転員	臨時職員	1					1
	パート職員	3	1	2			6
	合計	3	1	2	0	0	6
(嘱託医師)	正職員	②	①				③
	臨時職員						0
	パート職員						0
合計	合計	②	①				③
	正職員	61	17	5	6	4	93
	臨時職員	10	3	7	0	0	20
	パート職員	21	3	7	0	0	31
合計		92	23	19	6	4	144

* R2.3.31付け退職者含む

職員の動向等

1. 採用の状況(平成31年4月1日～令和2年3月31日、令和2年4月1日付採用内定者含む)

採用者数	介護職員	看護職員	相談援助	事務	保安員	運転手	清掃員	元年度計	30年度	29年度
	6	3		3		3		15	26	22
雇用形態	正規	臨時	非常勤	計						
	8	2	5	15						
採用区分	新卒等	中途	障害者	計						
	2	13		15						
採用経路	ハローワーク	人材紹介	直接応募	計						
	7	1	7	15						

2. 退職の状況(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

退職者数	介護職員	看護職員	相談援助職	保安員	事務員	運転手	清掃員	元年度計	30年度	29年度
	7	3	2	1	2	1		16	23	13
雇用形態	正規	臨時	非常勤	計						
	10	4	2	16						

3. 安全衛生管理の状況(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

3-1) 職員の平均年齢・性別(令和2年3月31日現在)

職員数	男性	女性	平均年齢	
144名	38名	106名	46.2歳	元年度
141名	36名	105名	44.9歳	30年度
136名	36名	100名	44.4歳	29年度

3-2) 職員健康診断の実施状況

定期健康診断	5月 (夜勤者)	11月 (全職員)	合計
受診者	42	131	173
医師の指示人数	4	76	80
産業医面談実施	0	5	5

3-3) 労働災害発生状況

内容	勤務中	通勤途上	合計
	1	0	1
			*不休災害

4. 育児休業の状況(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

	女性	配偶者が出産した男性	合計
出産者	7	0	7
育児休業者	7	0	7

5. 介護休業の状況(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

介護休業者	女性	男性	合計
	0	0	0

令和元年度施設外研修等一覧(出張復命書あり)

日付	研修会・会議名等	主催	場所	参加者	参加人数
4/10	認定調査従事者新規研修	新潟県	長岡市	居宅支援	1
4/18	民生児童委員協議会定例会及び懇親会	頸城地区民生委員児童委員協議会	市内	地域包括	4
5/11	地域福祉講演会～上越市これから地域福祉について～	上越市	市内	地域包括	1
5/22	第1回ACP症例検討会	上越総合病院	市内	居宅支援、地域包括	4
5/23	令和元年度障害福祉関係施設長会議	新潟県福祉保健部障害福祉課	新潟市	施設長	1
5/29	令和元年度定期総会・第1回管理者研修会	新潟県老人福祉施設協議会	新潟市	施設長	1
5/30	食品衛生講習会(バザー講習会)	上越保健所	市内	栄養士	1
6/5	第21回タマリヤ衛生セミナー	(株)タマリヤ	市内	栄養士	1
6/10	第5ブロック部会 令和元年度第1回研修会	新潟県老人福祉施設協議会	市内	相談援助	1
6/12	厚生労働省との意見交換会	厚生労働省、上越市	市内	施設長	1
6/18	地域生活支援拠点等運営事業者募集説明会	上越市	市内	障害課長	1
6/21	令和元年度 第1回総会並びに施設長・庶務担当課長会議	新潟県身体障害者施設協議会	長岡市	施設長、事務長	2
6/26,27	相談支援従事者初任者研修	新潟県	新潟市	介護	2
6/26	新潟県認知症介護基礎研修	新潟県	十日町市	介護	1
6/27	令和元年度MCネット活用塾	上越市妙高市在宅医療介護連携推進協議会	市内	地域包括	2
6/28	上越地区老人福祉施設 施設長・事務長会議	上越地区老人福祉施設	市内	事務長	1
7/3～8/30	新潟県認知症介護実践者研修	新潟県	長岡市	介護	1
7/5	ラショナル・キャッシングライブ(調理実演会)	(株)ラショナル・ジャパン	市内	調理	1
7/8	令和元年度 隨時施設長会議	関東・甲信越地区身体障害者施設協議会	東京都	施設長	1
7/12	サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者基礎研修	新潟県	長岡市	介護	2
7/12	令和元年度職員研修会	新潟県身体障害者施設協議会	長岡市	介護	1
7/12	上越市社会福祉協議会懇親会	上越市社会福祉協議会頸城支所	市内	地域包括	4
7/18	令和元年度 第2回担当者研修会	上越地域職域健康づくり連絡協議会	市内	管理課長	1
8/8	安全運転管理者等講習	新潟県安全運転管理者協会	市内	施設長	1
8/27	令和元年度新潟県地域包括支援センター職員等研修	新潟県	新潟市	地域包括	1
8/29	ケアマネ・訪問看護等連携研修会	新潟県訪問看護ステーション協議会上越支部	市内	居宅支援	2
9/4	福祉送迎運転者講習会	一般社団法人日本福祉車両協会	市内	運転、介護	7
9/10	第24回県老人福祉施設研究大会	新潟県老人福祉施設協議会	糸魚川市	介護	2
9/12	大潟区、頸城区合同福祉従事者研修会	しおさいの里地域包括支援センター	市内	居宅支援	1
9/13	第21回タマリヤ衛生セミナー	(株)ナリコマエンタープライズ	市内	栄養士	1
9/18	令和元年度第2回ACP症例検討会	上越総合病院	市内	居宅支援	1
9/26,27	令和元年度サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修	新潟県	柏崎市	介護	2
10/3、4	第4回施設職員研修大会	関東・甲信越地区身体障害者施設協議会	東京都	介護	1
10/10	他法人との合同研修会	上越市社会福祉協議会	市内	居宅支援	3
10/20	医療・健康福祉市民フォーラム「誰もがすこやかに暮らせる共生のまちづくり」	医療・福祉フォーラム実行委員会	市内	地域包括	3
10/24	令和元年度新潟県介護支援専門員実務研修実習指導者事前研修	新潟県介護支援専門員協会	新潟市	居宅支援	1
10/25	令和元年度支援担当課長会議	新潟県身体障害者施設協議会	長岡市	障害課長、サビ管	2
11/1	新潟県認知症介護基礎研修	新潟県	市内	介護	2
11/1	施設交流会	上越総合病院	市内	地域包括	1
11/7	令和元年度上越圏域精神障害者地域移行支援研修会	新潟県上越地域振興局	市内	地域包括	2
11/8	サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者更新研修	新潟県	長岡市	障害課長、相談援助	2
11/13	上越地域職域健康づくり連絡協議会 定期総会	上越地域職域健康づくり連絡協議会	市内	管理課長	1
11/15	令和元年度庶務担当者会議	新潟県身体障害者施設協議会	長岡市	事務	2
11/18	令和元年度上越圏域高次脳機能障害支援従事者研修会	新潟県糸魚川地域振興局	糸魚川市	地域包括	2
11/21	令和元年度県栄養士会研修会	新潟県栄養士会上越支部福祉部会	市内	栄養士	1
11/21	公開講演会(イノベーションレクチャー)	新潟県厚生連 上越総合病院	市内	地域包括	1
11/25	令和元年度上越地域キャラバンメント活動支援研修会	上越地域振興局健康福祉環境部	市内	地域包括	1
11/26	関東・甲信越地区身体障害者施設協議会 令和元年度 第2回施設長会議	関東・甲信越地区身体障害者施設協議会	東京都	施設長	1
11/26	ケアマネ・訪問看護等連携研修会	新潟県訪問看護ステーション協議会上越支部	市内	地域包括、居宅支援	2
11/27	第24回筋ジストロフィー研修会	独立行政病院国立病院機構新潟病院	柏崎市	地域包括	1
11/29	夕映えの郷30周年記念上映会(映画「夜明け前」)	夕映えの郷	市内	複合施設	15
12/6	令和元年度虐待防止ネットワーク運営研修	新潟県	新潟市	地域包括	1
12/6	令和元年度上越圏域介護予防・自立支援研修会	上越地域振興局健康福祉環境部	市内	地域包括	1
12/12	他職種連携研修会 養成リーダーフォローアップ研修	上越市・妙高市在宅医療・介護推進協議会	市内	居宅支援	1
1/8	上越循環器病地域連携バス(心不全)研修会	上越地域在宅医療推進センター	市内	居宅支援	3
1/17	令和元年度上越地域居宅介護支援事業推進協議会研修会	上越地域居宅介護支援事業推進協議会	市内	居宅支援	4
1/26	糸魚川市第2回地域医療フォーラム・糸魚川地域精神保健福祉フォーラム	糸魚川市、糸魚川市地域振興局	糸魚川市	在宅課長、地域包括	2
1/27	2019年度社会福祉援助技術現場実習報告会	新潟青陵大学	新潟市	相談援助	1
1/29	障害相談等に関する研修会	上越市地域包括支援センター	当施設	在宅課長、地域包括	6
2/4	高齢者自殺予防研修会	上越保健所	市内	在宅課長	1
2/6	令和元年度第5ブロック研修会	新潟県介護支援専門員協会	市内	居宅支援	1
2/14	市内13区地域包括支援センター職員自主勉強会	13区地域包括支援センター	当施設	地域包括	3
2/20	関東・甲信越地区身体障害者施設協議会 令和元年度 第2回総会・第3回施設長会議	関東・甲信越地区身体障害者施設協議会	長野市	施設長	1
2/21	自殺予防研修会	新潟県	市内	在宅課長、地域包括	2

令和元年度施設内研修等一覧

日付	研修会名	主催	講師(説明者)	参加人数
4/5,10,12,24	令和31年度事業計画及び法令遵守に関する職員説明会	しおさいの里等複合施設	統括施設長	127
5/15	身体拘束廃止・虐待防止研修会～家族から「転ばせないで縛って」と言わされたとき	人権意識向上委員会	委員	15
6/18	食中毒予防に関する研修会～安全・安心な食品の提供に向けた衛生管理	衛生委員会・感染症対策委員会	二ノ倉管理栄養士	14
6/19	認知症ケアの基礎を学ぶ～パーソン・セントード・ケア	DCUプロジェクト	委員	13
6/27	疥麻マニュアル説明・疥麻研修会	感染症対策委員会	委員	18
7/17	みんなで学ぼう会(認知症ケア研修)～ひもときシートを活用した事例検討	DCUプロジェクト	認知症介護指導者	7
7/31	事故防止に関する研修会～リスクマネジメントを理解しよう	事故防止・安全委員会	委員	19
8/1, 2	福祉機器・用具展示会	ケア向上委員会	ケンブリッジ上越営業所	32
8/29	みんなで学ぼう会(認知症ケア研修)～ひもときシートを活用した事例検討②	DCUプロジェクト	認知症介護指導者	6
9/18	身体拘束廃止・虐待防止研修会～不適切な言葉遣い・対応ってなんだろう	人権意識向上委員会	委員	19
9/30	みんなで学ぼう会(認知症ケア研修)～レクリエーションの手法	DCUプロジェクト	中越福祉会やすらぎの里作業療法士	19
9/17,20	「プロフェッショナル NHK 観賞」(認知症ケア研修)	DCUプロジェクト	委員	6
10/10	口腔ケア研修会	食事委員会	外部歯科衛生士	20
10/24	メンタルヘルス研修～信頼関係形成のためのコミュニケーション	衛生委員会	(株)マナーズ 山田代表取締役	32
10/30	みんなで学ぼう会(認知症ケア研修)～悪性の社会心理について学ぼう	DCUプロジェクト	認知症介護指導者	11
11/13	ケアアップ研修会～移乗支援用具の活用方法と体験	ケア向上委員会	委員	15
11/20	嗜痰吸引実務研修	事故防止・安全委員会	委員	15
12/18	みんなで学ぼう会(認知症ケア研修)～認知症で頑張ったことの発表会	DCUプロジェクト	委員	12
12/20～	新潟県認知症ケアアドバイザー派遣事業(コロナ禍により中断)	高齢介護課	アドバイザー(認知症介護指導者)	60
1/31	みんなで学ぼう会(認知症ケア研修)～認知症を持つ人の生活環境	DCUプロジェクト	(株)IDO 山下介護ディレクター	19
2/19	看取りに関する研修会～エンディングノート	人権意識向上委員会	委員	20
11/～3/	身体拘束廃止・虐待防止研修会～部署内研修会	人権意識向上委員会	委員	62
				561

職員資格取得状況一覧(述べ数)

資格・免許		平成31年4月1日現在	令和2年4月1日現在	増減
看護・機能訓練等	看護師	8	8	0
	准看護師	7	5	-2
	作業療法士	1	1	0
	あんまマッサージ指圧師	1	1	0
	歯科衛生士	1	1	0
	衛生管理者	1	1	0
介護	介護福祉士	81	78	-3
	実務者研修(旧ヘルパー1級)	14	14	0
	介護職員初任者研修(旧ヘルパー2級)	39	36	-3
	認定特定行為業務従事者(50時間研修修了者)	19	25	6
	認定特定行為業務従事者(14時間研修修了者)	37	38	1
	認知症介護基礎研修修了	0	4	4
	認知症介護実践者研修修了	13	15	2
	認知症介護実践リーダー研修修了	2	5	3
	認知症介護指導者養成研修修了	2	1	-1
相談援助	主任介護支援専門員	3	3	0
	介護支援専門員	22	22	0
	社会福祉士	10	9	-1
	精神保健福祉士	5	6	1
	サービス管理責任者	5	6	1
	社会福祉主任用資格	30	30	0
栄養	管理栄養士	1	1	0
	栄養士	1	1	0
	調理師	8	8	0
計		311	319	8

* 4月1日付採用内定者含む

特別休暇(自己啓発援助制度)の取得状況

資格	休暇申請者数	休暇取得日数(延べ)
介護支援専門員	2	4日
精神保健福祉士	1	14日

外部実習受入及び地域交流等の状況(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

1)専門実習、福祉体験学習等受入の状況

日付	実習名	依頼元団体	受入部門	人数
5/15～16、他6回	老年看護学Ⅰ実習	上越看護専門学校	しおさいの里	31
6/10～26	介護実習Ⅲ	上越保健医療福祉専門学校	しおさいの里	3
6/10～26、10/7～25	社会福祉援助技術現場実習	新潟青陵大学	しおさいの里等複合施設	1
6/12	施設見学等	特別養護老人ホーム新光園	しおさいの里	5
6/3～14	保育実習Ⅰ	長岡子ども福祉カレッジ	さいはま園	1
6/19、他8回	脳トレ交流	大潟町小学校4学年	介護予防教室だんだん広場	75
5/13、他6回	在宅看護論実習	上越看護専門学校	地域包括支援センター	7
7/22～26	職場体験学習(上越ゆめチャレンジ)	上越市立大潟町中学校2学年	しおさいの里、デイサービス	5
7/23～8/7	保育実習Ⅰ	日本こども福祉専門学校	さいはま園	1
7/8、10	ふれあい交流	上越市立はまっこ保育園	デイサービス	40
8/1	施設見学等	特別養護老人ホーム名香山苑	さいはま園	6
8/14	認知症介護実践者研修現場実習	特別養護老人ホームいなほ園	デイサービス	1
8/27	地域包括支援センター実習	新潟県立看護大学	地域包括支援センター	7
9/12～24	介護実習	上越保健医療福祉専門学校	さいはま園	2
10/16～12/3	施設訪問・交流	大潟町中学校3学年	しおさいの里、デイサービス	10
10/28～11/1	介護実習	新潟医療福祉カレッジ2年	しおさいの里	2
11/9	美化活動	大潟町中学校奉仕クラブ	しおさいの里	17
2/5	じょんのびカフェ	夕映えの郷	さいはま園	30
2/17～19	新潟県介護支援専門員実務研修見学実習	新潟県介護支援専門員協会	居宅介護支援事業所	1
				245

2)イベント開催・参加等の状況

日付	名称(場所)	概要	参加数
4/4他13回	地域サロンへの講師派遣	体力測定や転倒予防の体操、認知症や生活習慣病予防の講話(地域包括支援センター)	324
4/18他9回	町内会、老人会等への講師派遣	地域支え合い事業の紹介、認知症に関する講話等(地域包括支援センター)	183
5/31	上越文化会館アウトリーチ事業(音楽会)	地域の芸術文化普及の一環として、国内外で活躍されているアーティストを招き身近に芸術文化に触れる出張講演(さいはま園)	55
6/19他6回	みんなで学ぼう会(認知症ケアに関する研修会)	地域全体の認知症ケア向上の取り組みの一つとして、近隣施設・事業所や地域の方々と共に勉強会を独自で開催	142
6/8	「第18回ふくしのひろば」(リージョンプラザ上越)への参加	アダプティッド・スポーツ(年齢や障がいを問わず、誰もが参加できるスポーツ)の体験交流会の実施(さいはま園)	200
6/22	地域貢献(社会奉仕)活動の実施	犀潟児童遊園の環境整備を実施(しおさいの里等複合施設・犀潟町内会合同)	6
6/14、12/3	施設内訪問衣類販売会	施設利用者に買い物の機会を提供する	200
7/13	「おおがた七夕☆絆まつり」(大潟コミュニティプラザ)への参加	利用者の作品展示、介護相談、福祉用具展示、スポーツの体験会等の開催(夕映えの郷と合同参加)	800
8/5他1回	認知症サポーター養成講座の開催	認知症を正しく理解し、認知症の人への「応援者」の養成(地域包括支援センター)	158
8/10	うみまちフリーマーケット	地域住民ならびに団体に施設内を開放し、フリーマーケットを通じた施設と地域との交流を促進する	100
9/8	RUN伴(らんとも)への参加	NPO法人認知症フレンドシップクラブが主催する認知症啓発イベントに法人として参加する	60
11/3	ありがとう祝☆20周年～つなげて・ひろげて・未来に向けて～	開設から20周年を記念して、しおさいの里の現在までの歩みやその効果、魅力等をご利用者・地域とともに再発見する	400
8/27,全5回	地域ケア会議	地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みとして、地域の関係者で地域課題を協議(地域包括支援センター)	171
			2799

3)介護予防事業(ココカラプロジェクト「だんだん広場」)開催状況

クラス名	開催時期	場所	実施回数	延参加人数
うのはなクラス	週1回(火曜日)	上越市大潟保健センター	40回	1,202人
さいがたクラス	週1回(水曜日)	しおさいの里ボランティアルーム	44回	1,287人
さいがたクラス	週1回(木曜日)	しおさいの里ボランティアルーム	43回	1,164人
		合計	127回	3,653人

4)上越市地域支え合い事業

(まちづくり大潟委託事業)

日付	名称(場所)	概要	延参加人数
4/26他,全10回	介護者家族の集い	介護者の悩み相談、介護者同士の情報交換の場、介護者教室(地域包括支援センター)	30人
4/26他,全10回	認知症カフェ「うみまち茶屋」	認知症の人やその家族、地域住民等が気軽に集い交流を図ったり、認知症について情報交換を行う場(地域包括支援センター)	268人
4/3他,全44回	介護予防教室「だんだん広場」水曜クラス	介護予防に筋力維持や改善、認知症予防等を目的とした体操やレクリエーションの実施するとともに、参加者同士が交流することによる生きがいづくりや社会参加促進の取り組みとして実施する	1,287人

(くびき振興会運営支援)

日付	名称(場所)	概要
4/2他,全36回	新すまいるエイジング	介護予防教室での血圧測定や参加者の様子観察、健康に関する(地域包括支援センター)
6/5他,全4回	認知症カフェ「あやめ茶屋」	認知症の人やその家族、地域住民等が気軽に集い交流を図ったり、認知症について情報交換を行場(地域包括支援センター)

5)ボランティア受入の状況

延受入回数	元年度:209回 (30年度:255回)	内容:利用者交流(お話等)、繕い物、施設行事補助、余興(踊り、唄、太鼓披露等)、園芸指導、生け花指導、書道指導、ハンドマッサージ、介護予防教室運営補助、認知症カフェ運営補助、クラブ活動補助、リネン交換、その他
延受入人数	元年度:703人 (30年度:815人)	

6)施設設備・備品等の地域への開放・貸出

内容(元年度):フリーマーケットでの施設開放、地域交流スペース(ボランティアルーム)の貸出(みんなで学ぼう会等の各種外部研修)

7)広報活動等

名称	発行日等	備考
公式ホームページ(http://www.siosainosato.jp)	随時更新	年間アクセス数21,133件(月平均1,761アクセス)
広報しおさい	第45号(8月)、第46号(1月)	各回1000部作成
あつと・ホーム	毎月1回発行	特養部門ご家族に配布
じょんのび・ネット	毎月1回発行	さいはま園ご家族に配布
ゆりかご通信	毎月1回発行	デイサービスセンターご家族に配布
上越タイムス	年2回掲載(8月、1月)	施設紹介を兼ねた介護特集・協賛広告を掲載
新潟日報朝刊	R1.6月～R2.3月(計9回掲載)	新潟・認知症キャンペーン「オレンジの輪」への協賛広告
新潟日報朝刊	1/1付け朝刊	年賀名刺広告
地域包括支援センター周知チラシ	H31.4月、R1.11月発行	大潟区・頸城区全戸配布(計12,400部)
地域回覧版広告更新	R1.9月から3年間	大潟区内

苦情解決等の状況

1) 苦情受付期間

平成31年4月1日～令和2年3月31日

2) 苦情受付件数

年度	元年度	30年度	29年度	28年度	27年度	26年度
件数	2件	7件	6件	4件	2件	5件

(2件の事業別内訳)

複合施設 全体	特養 (入所)	特養 (短期)	通所介護	居宅介護 支援	地域包括 支援	障害支援	その他
	1件					1件	

3) 苦情申出人の状況

	元年度	30年度	29年度	28年度	27年度	26年度
ご利用者本人	1件	2件	3件	2件	2件	1件
ご家族・身元引受人	1件	4件	3件	1件	件	3件
第三者(介護支援専門員等)	件	1件	件	1件	件	1件

4) 苦情の内容

No.1	内容	ショートステイ利用に関する意見:①私用物の施設での管理方法について知りたい、②送迎時の対応を改善してほしい、③施設での介助方法について確認してほしい(障害部門)
	原因	管理体制や職員の対応不備、情報共有方法の行き違い等によりご家族に不信感を抱かせてしまった
	対応	管理体制や対応に不備があった部分について謝罪するとともに、施設利用時の介助や対応方法についてはより詳細な情報を書面で提示し、ご家族と共有した。
	結果	申出人よりご理解をいただいた。
No.2	内容	コール対応について:職員を呼ぶためにコールボタンを押したが何の返答もなく切れてしまった。その後、職員が部屋に来るまでに10分程かかり、待たせるのであれば一言欲しかった。コール対応について改善してほしい。(特養部門)
	原因	職員の接遇(説明不足や態度):コールが鳴った時、職員は他利用者の介助のため、すぐに申出人のところに駆けつけることができなかった。その際、申出人に対し対応が遅れてしまう旨を説明すべきところを怠ってしまった。また、職員間の連携も不足していた。
	対応	謝罪とともに今回の意見について当該部署に限らず、施設全体で共有し、改善していくことを申出人に説明する。
	結果	申出人よりご理解をいただいた。

5) 意見箱への投稿

- 正面玄関ロビーに設置してある意見箱に投函された意見:1件

内容:食事に出るパンの耳が固くて食べづらい。美味しいいただけるよう腕をふるっていただきたい。

令和元年度地域包括支援センター運営事業報告書
しおさいの里地域包括支援センター

①総合相談支援

○相談件数

相談延件数	月平均件数
1,683	140

○相談経路及び方法

<相談経路>

	相談延件数	月平均件数
本人	638	53
家族等	475	40
関係機関	17	1
相談協力員	532	44
その他	21	2

<相談方法>

	相談延件数	月平均件数
電話	727	60
文書	8	1
来所	272	23
訪問	641	53
巡回	35	3

【相談内容】

- ・主に介護保険に関する相談が多く、新規申請や基本チェックリストの実施は年間178件。できる限り認定調査に立ち会い、速やかなサービス調整を心がけ、必要に応じて居宅介護支援事業所を紹介している。
- ・医療に関する相談では本人や家族、介護支援専門員からが多く、看護師が主に担当している。医療ニーズに対して適切な支援が行えるよう介護支援専門員に助言を行ったり、医療機関やサービス事業所につなげている。
- ・障害に関する相談については各総合事務所の保健師や夕映えの郷等の事業所につないだり、同行訪問など行っている。

【地域への周知】

- ・地域包括支援センターの役割や活動内容を周知するための広報紙を作成し、5月と11月に大潟区、頸城区で全戸配布を行った。
- ・5月に行われた大潟区と頸城区の健康診査会場に地域包括支援センターの相談コーナーを設置し、来場者一人ひとりに地域包括支援センターのリーフレットを配布したり、生活上の相談を受け付けた。
- ・すこやかに老いるための市民啓発講座は1回目の講師として地域包括支援センターの役割や活動について周知を行った。それ以外の回にも積極的に参加し、参加者と一緒に講座を受けながら困ったときの相談窓口としての機能を周知することができた。

【民生委員・児童委員との連携】

- ・大潟区、頸城区民生委員・児童委員協議会の定例会に出席し、地域包括支援センターの取り組みを紹介したり、意見交換を行った。12月の改選後に大潟区では地域包括支援センターの役割について説明したり、頸城区ではケースの引き継ぎに同席をするなど、連携を図った。
- ・民生委員から一人暮らし高齢者の相談や対応困難ケースの相談など、昨年度に比べ増えてきている。

(1)実態把握

実態把握延件数	月平均件数
562	49

年間目標720件。達成率は78%

毎月の会議で訪問状況を確認し、一人ひとりが意識的に訪問するように行ったが、業務によっては訪問できない月もあった。一人暮らし高齢者には救急医療・災害時支援情報キッドの内容を確認し、必要に応じて書面を更新するなど対応した。

②権利擁護

○権利擁護に関する相談

	相談件数
虐待(疑いを含む)	7
消費者被害	5
多重債務	0
日常生活自立支援事業	4
成年後見制度	21

【成年後見制度、日常生活自立支援事業】

成年後見等に関する相談者は8名。うち6件の申し立て支援をした。申立人は本人5件、四親等

以内の親族が1件。書類の作成が難しい場合には社会福祉士が中心となって書類を作成した。

後見人等候補者は社会福祉士4件、司法書士1件、親族1件であった。

今後も認知症高齢者の増加や知的障害者、精神障害者の相談窓口として金銭管理や身上監護で支援が必要な場合には制度の説明とともに申し立てが必要な場合には関係者と協力して支援をしていく。

日常生活自立支援事業については金銭管理の点から相談があり、上越市社会福祉協議会にも相談をしたが、事業につながった方はいなかった。

【高齢者虐待への対応】

相談受付が4件。通報者は民生委員1件、担当ケアマネ3件。4件とも事実確認を行い、虐待の事実があると判断とした。虐待の種類は身体的虐待4件、心理的虐待3件であった。上越市の高齢者虐待防止マニュアルに沿って区総合事務所と連携を図り、コアメンバー会議、対応評価会議を実施し、ショートステイ等で介護者と分離したり、養護者の入院等で3件が終結している。1件は自然とに継続となった。

【困難事例への対応】

高齢者虐待に限らず、介護支援専門員から困難事例の相談があった場合には区総合事務所と情報共有し、連携を図りながら支援を行っている。必要に応じて関係者や関係機関と個別ケース会議を開催するなど多職種協働において支援ができた。

【消費者被害防止】

老人会やサロン等で消費者被害の注意喚起を行い、不審なハガキに気を付けるよう周知している。

頸城区で2件催眠商法の被害に遭ったと相談があり、上越市消費生活センターに連絡をした上で、総合事務所と連携し、クーリングオフの手続きを行った。

③包括的・継続的ケアマネジメント業務

(1)地域ケア会議

	開催日	内容	参加人数
第1回	8月27日	高齢者のゴミ出し支援について(大潟区)	38名
第2回	10月24日	見守りある地域づくり(頸城区南川地区)	32名
第3回	10月28日	見守りある地域づくり(頸城区大瀬地区)	36名
第4回	11月6日	見守りある地域づくり(頸城区明治地区)	28名
第5回	2月20日	医療と介護の連携	37名

・大潟区では高齢者のゴミ出し支援を切り口に町内課長、民生委員、ボランティア団体等と地域で困っている方の見守りや発見、地域で協力できることについて協議することができた。地域の事前のアンケートで地域独自のゴミ出しルールを確認し、支援者の参考にしてもらうことができた。

・頸城区では平成30年度の地域ケア会議の内容を継続し、地域での見守りについて検討した。昨年のアンケートで「地区毎で課題が違うので、地区毎での開催」という意見も多かったため、上越市社会福祉協議会の地域福祉活動計画の説明とともに、地域で見守りを行っている事業所から取り組み紹介があり、地域の見守りネットワーク体制を再構築することができた。

・医療と介護の連携では上越総合病院と新潟労災病院の退院調整看護師とケースワーカーからそれぞれの役割と退院支援について説明を受けた。今回は居宅サービス以外にも施設系サービスや障害福祉サービス事業所からも参加があり、地域全体で医療と介護について考えることができた。

(2)介護支援専門員に対する支援

	相談件数
担当者会議	19
同行訪問	30
単独訪問	8
社会資源の紹介	14
関係機関の調整	24
ケアマネへの研修会	3
本庁・総合事務所への連絡	10

日頃から介護支援専門員から電話で相談を受けたりすることもあるが、来所時や事業所の訪問時に情報の共有を図ることで連携しやすい関係を構築している。

地域包括支援センター主催で頸城区周辺の事業所を対象にした連絡会を3回開催した。地域包括支援センターや行政からの連絡の他、救急対応、福祉用具の紹介、自立支援に関する復命研修など介護支援専門員の資質向上に向けた取り組みを行った。

(3)個別地域ケア会議

大潟区と頸城区でそれぞれ3回ずつ、計6回実施した。毎回ではないが、歯科医師や薬剤師からの参加もあり、医療における助言等が受けることができた。

事前打ち合わせでは情報の確認や支援内容について助言を行っていた。終了後は事例提供者と今後の支援内容について確認を行ったり、同行訪問をするなどした。

④第1号指定介護予防支援(介護予防マネジメント)

○認定者の状況(令和2年3月末現在)

認定者数			予防給付		介護予防ケアマネジメント	
チェックリスト	要支援1	要支援2	利用者数	うち委託数	利用者数	うち委託数
49	116	166	182	119	76	39

総合事業のみの場合は基本チェックリストを実施し、アセスメントをする中で福祉用具の必要性がある場合には介護保険の申請をするなど自立に向けた支援を段階的に行うようしている。また、全体の業務バランスを考え、利用者の意向を確認しながら居宅介護支援事業所に委託している。またサービス担当者会議には可能な限り参加し、利用者の情報共有や自立支援について協議するようにした。

⑤介護予防に関する普及・啓発を行う事業

(2)講師依頼

各団体から介護予防に関する講師依頼を受け、26会場で実施し、延べ664名の参加があった。体力測定や予防体操を行ったり、高血圧症などの生活習慣病、認知症に関する講話は寸劇を交え、分かりやすく伝わるように工夫した。参加者から個別に相談を受け、支援につながることが多くなっている。

日程	事業名	参加者数	内容
4月4日	渋柿浜いきいきサロン	28名	講話(高血圧、脳卒中予防)
4月7日	明治分館いきいき人生元気事業	10名	地域包括紹介
4月17日	下小船津浜いきいきサロン	13名	体力測定、講話(高血圧・脳卒中予防)
4月18日	土底浜いきいきサロン	35名	体力測定、講話(高血圧・脳卒中予防)
4月18日	坂田茶話会	8名	体操、講話(高血圧・脳卒中)
4月21日	畠ヶ崎サロン	16名	講話(高血圧、脳卒中予防)
5月16日	潟町老人会(年輪会)	20名	講話(高血圧、脳卒中予防)
6月14日	森本老人クラブ	12名	講話(熱中症予防)
6月27日	犀潟いきいきサロン	25名	体力測定、講話(熱中症予防)
7月21日	日根津町内会健康セミナー	20名	講話(熱中症予防)
8月5日	大潟町小学校児童クラブ	70名	認知症サポーター養成講座
8月6日	だんだん広場火曜クラス	30名	講話(熱中症予防)
8月7日	だんだん広場水曜クラス	28名	講話(熱中症予防)
8月8日	だんだん広場木曜クラス	31名	講話(熱中症予防)
9月1日	明治分館いきいき人生元気事業	15名	講話(認知症予防)、体操
9月27日	認知症カフェうみまち茶屋	34名	講話(認知症予防)、体操
10月2日	大潟町中学校3年生	88名	認知症サポーター養成講座
10月8日	JA助け合い事業助け合いまのり会	32名	講話(認知症予防)
10月15日	柳町サロン	12名	講話(認知症予防)、ニュースポーツ

10月17日	坂田茶話会	13名	講話(認知症予防)、ニュースポーツ
12月14日	老人クラブ下吉吉寿会	32名	講話(認知症予防)
12月14日	老人クラブ百寿会	20名	講話(認知症予防)
1月15日	老人クラブ百仙会	25名	講話(認知症予防)
2月2日	明治分館いきいき人生元気事業	15名	健康予防体操
2月9日	老人クラブ花ヶ崎寿会	25名	講話(認知症予防)
2月16日	老人クラブ森本長寿会	18名	講話(認知症予防)